

平成 29 年度 札幌市行政評価
外部評価報告書

平成 30 年（2018 年）1 月
札幌市行政評価委員会

《 目 次 》

第1章 外部評価の概要

1 評価の目的と対象.....	- 1 -
2 市民参加の取組.....	- 1 -
3 評価対象施策・事業の選定.....	- 1 -
4 活動の経過.....	- 2 -

第2章 市民参加の取組（市民参加ワークショップ）

1 取組の概要.....	- 3 -
2 対象テーマの設定.....	- 3 -
3 開催日程.....	- 4 -
4 参加者.....	- 4 -
5 実施方法.....	- 4 -
6 実施結果とその活用.....	- 5 -

第3章 外部評価へ各施策及び関連事業の評価結果

● 総括コメント.....	- 6 -
1 施策「1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」.....	- 7 -
2 施策「9-10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化」.....	- 13 -
● 局別評価対象施策・事業一覧.....	- 16 -
● 行政評価委員会の委員構成.....	- 17 -

第4章 参考資料

市民参加の取組（ワークショップ）報告書.....	- 17 -
--------------------------	--------

第1章 外部評価の概要

1 評価の目的と対象

今年度の外部評価では、以下の2点を目的として、札幌市が平成28年度に実施した予算小事業とその上位目的である施策に関する評価を実施した。

- ① 市の行政評価に行政外部の専門的な立場からの視点を取り入れ、その透明性及び客観性を確保するとともに、業務改善の更なる取組につなげること。
- ② 市の施策・事業等に関する評価を一体的に行い、評価結果を市の施策・事業の効率性・有効性の更なる発揮の取組につなげること。

2 市民参加の取組

この取組では、行政評価委員会（以下「委員会」という。）における評価対象事項のうち、市民生活への密着性が高い事業など、特に市民目線や市民感覚を踏まえる必要性が高いと判断したテーマについて、市民参加型のワークショップ^{*}を実施することとし、その取組結果も踏まえて、委員会としての評価結果をまとめた。

ワークショップの詳細は、巻末参考資料「市民参加の取組（ワークショップ）報告書」のとおり。

※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解し合いながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」。

3 評価対象施策・事業の選定

委員会での議論の熟度を高め、評価を通じた取組課題等の抽出を行うため、委員会の合議により、以下の視点から、2施策18事業を評価対象に選定した。評価対象と選定理由は表1のとおり。

- ① 特定の分野に偏ることなく、多様な分野から政策的なバランスを考慮して施策・事業を選定するため、近年（直近3か年）、行政評価の対象となっていない施策に着目し、優先的に今回の評価対象として検討を行う。
- ② 重点課題・施策の目的を踏まえ、その実現に関わりが深い事業の中から、事業規模や事業数、事業の性質、事業成果の達成状況等を考慮の上、対象事業を選定する。
- ③ より効果的な評価とするために、選定は関連する複数の事業のまとまり（事業群）での評価も可能とする。
- ④ 行政評価委員会と連携した市民参加の取組（ワークショップ）を行うことから、市民生活と関わりの深い事業や市民との協働の要素が大きい事業等、市民目線・市民感覚で議論することが特に有意義と考えられる事業を含む分野（施策）にも配慮して選定する。

【表 1】 評価対象施策・事業と選定理由

評価対象	選定理由
施策：「施策1－2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」 事業：地域の保健福祉課題への取組、認知症施策推進、在宅医療の普及や介護人材の確保促進に関する13事業	今後、団塊の世代が後期高齢者となり、介護や支援を必要とする高齢者が増加する超高齢社会を迎え、札幌市の高齢者福祉施策の有効性等について確認する必要があるため。
施策：「施策9－10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化」 事業：公共施設の維持更新、長寿命化に関する5事業	今後、多くの公共施設等が更新時期を迎えることから、長寿命化等の取組について確認する必要があるため。 また、今後の人口減少を見据えて、公共施設の維持更新をどのように行っていくのか、事業の持続可能性を確認する必要があるため。

4 活動の経過

委員会は、評価対象事業を選定した後、市が行った自己評価の評価調書等に基づき、事業所管局へのヒアリング（聞き取り調査）を実施し、取組状況を確認した。さらに、市民参加の取組（ワークショップ）の結果から、市民ニーズの傾向を把握した。

ヒアリングにおいて論点となった事項やワークショップで出た市民意見等を基に、事業所管局への確認を経て、委員会の合議により最終的な評価結果をまとめた。

《行政評価委員会の活動経過》

平成29年6月13日 第1回行政評価委員会（評価対象施策の選定等）
6月30日 第2回行政評価委員会（評価対象事業及び市民参加の取組の対象テーマの選定等）
7月24日 ヒアリング 「施策1－2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」 「施策9－10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化」
8月26日 （参考）第1回市民参加ワークショップ（アイデアの抽出）
9月9日 （参考）第2回市民参加ワークショップ（アイデア実現に向けた方策の検討）
10月20日 第3回行政評価委員会（仮指摘事項等の協議）
11月30日 第4回行政評価委員会（仮指摘事項及び所管局意見に基づく指摘事項案の協議、報告書の検討、外部評価報告書のとりまとめ）

第2章 市民参加の取組（市民参加ワークショップ）

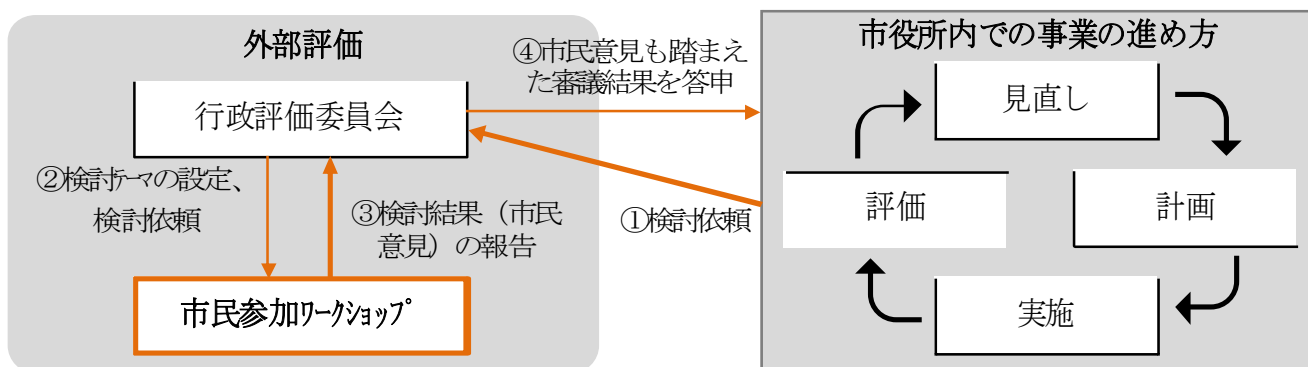
1 取組の概要

委員会における評価対象項目のうち、特に市民目線や市民感覚を踏まえる必要性が高いと判断し、委員会が選定したテーマ（下記のとおり）について、市民参加型のワークショップが実施され、市民意見の聴取が行われた。

ワークショップの実施にあたっては、参加者の対象テーマに関連する現在の市の取組について理解を深めた上で、話し合いの時間を長く取り活発な議論を行うことが求められる。その手段として、参加者に事前に対象テーマに関連する市の取組内容について資料を確認していただき、あらかじめ「どのような取組・アイデアがあるか」を検討していただいた上で、ワークショップにご参加いただいた。

ワークショップにおける議論の結果については、委員会として報告を受け、その内容を踏まえて、委員会の提言をまとめている。

【参考：行政評価委員会と市民参加の取組の関係図】



2 対象テーマの設定

対象テーマは、委員会の合議により、今年度の評価対象の中から主に以下の視点に照らして、次のとおり設定した。

- ① 委員会で選定した施策・事業の中から、市民生活への密着度が高いテーマなど、委員会として特に市民意見を聞く必要性が高いと判断した項目
- ② 専門的な視点や細かな視点にとらわれず、施策目的の実現のためには事業はどうあるべきか（市民ニーズから見た事業の改善の方向性等）という観点からご意見をいただきやすいもの。

テーマ：「地域で支える介護～私たちにできること～」

（施策「1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」関係）

設定理由：平成29年7月1日現在、札幌市の高齢化率は25.8%となり、平成37年には30.5%になると予測されている。

このような超高齢社会において、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくため、札幌市を含む全国の自治体では、住まい・医療・介護・予防・生活支援を包括的に確保する体制である「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいる。「地域包括ケアシ

システム」構築のためには、介護・医療などの専門職によるサービスと地域住民同士での
 支え合い＝互助が両輪となる。

委員会では、「地域住民同士での支え合い＝互助」の取組としてどのようなことが考
 えられるか、また、行政がどのような支援を行うことが必要かという観点を踏まえ、市
 民参加ワークショップで検討いただくテーマとして「地域で支える介護～私たちにでき
 ること～」を設定した。

3 開催日程

日時	議論の目的
平成 29 年 8 月 26 日 (土) 13:30~17:15	互助の取組として、「地域においてどのような取組が考 えられるか (アイデアの抽出)」についてご意見をいた だき、整理する。
平成 29 年 9 月 9 日 (土) 13:30~17:15	第 1 回の市民ワークショップで提案いただいたアイデ ア実現に向け、「どのような方策が考えられるか」ご 意見をいただく。

4 参加者

参加者の募集にあたっては、無作為抽出の 18 歳以上の市民 3,000 名に参加案内を送付したほか、例
 年、比較的若い世代の参加が少ないことから、専門学校等の協力を得て、学生の参加を募り、45 名の
 市民に参加 (いずれかの回に参加いただいた方) いただいた。性別・年代別の内訳は、下表のとおり。

【ワークショップ参加者内訳 (性別・年代別)】

(単位:人)

	年 代							
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合 計
第 1 回目								
男性	0	3	3	4	5	3	5	23
女性	4	3	2	4	4	2	3	22
合計	4	6	5	8	9	5	8	45
第 2 回目								
男性	0	3	3	3	4	3	5	21
女性	3	3	2	3	4	2	3	20
合計	3	6	5	6	8	5	8	41

5 実施方法

ワークショップでは、地域住民同士での支え合いについて意見を出してもらうため、参加者の居住
 区によってグループ分けを行った。また、メインファシリテーター (全体の司会進行を行うまとめ役)
 を 1 名、市民議論を円滑に進めるためのテーブルファシリテーター (進行役) を各テーブルに 1 名ず

つ配置した。

なお、初対面の市民同士が意見交換しやすくなるような議論の場づくりや議事の中立性を高めるため、ファシリテーター業務等については、市外部の専門事業者に委託した。

6 実施結果とその活用

各テーブルにおける議論の結果からは、市民目線からの多様な意見や提案が導き出された。

前述したとおり、本ワークショップにおけるグループワークは、参加者の居住区ごとに、中央区、北区、東・白石区、厚別・清田区、豊平・南区、西・手稲区の6チームに分かれて行った。各チームからは独自の取組が挙げられる一方で、共通の課題が多く出された。

ワークショップにおける各グループの議論の経過及び結果の詳細については、巻末参考資料「市民参加の取組（ワークショップ）報告書」にまとめられているので参照されたい。

委員会としては、これらの市民意見を踏まえて、指摘の検討を行った。

【ワークショップにおける主な市民意見の内容】

分類	内容
戦略的な広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも介護の実態を知る必要がある。 ・地域で高齢者を支えていくためには、「要望・情報の収集」が必要。 ・支援制度はいろいろあっても利用につながらないことから、介護制度の勉強会などを開く必要がある。行政にはバックアップしてほしい。 ・行政は、本人・家族がサービスを利用する心構えをどう育てるか。 ・札幌で行われている活動を知らない人が多い。
地域でつながる仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが「人とのつながり」づくりをする際には、ITを積極的に活用する。 ・つながりづくりとして、日ごろの挨拶や地域の行事への参加が必要である。 ・自分たちで地域のつながりを作っていくためには、コーディネートする人が必要である。 ・安否確認のため、自分たちも困っている高齢者がどこにいるか把握するべき。 ・ワークショップなどに参加し、地域の人たちと意識を共有するなどして、「自分ごと」にする。 ・地域の交流拠点として、近隣の既存施設・空きスペースを活用する。 ・互助のためには、気軽に参加しやすい仕組みづくりが必要 ・地域でボランティア活動の取組を行うためには、担い手であるボランティアの確保が必要。大学や専門学校でボランティア募集や、市の広報誌を活用して広報を行う。 ・地域と企業がつながることで地域コミュニティが活性化し高齢者を支えることにもつながっていくのではないかと。 ・遠方の親族より、近所の他人の方が助かる場合が多い。 ・孤独、引きこもりにならないためにも、つながりが重要 ・ネットワークが広がれば、孤立、孤独死を防ぐかもしれない。 ・行政は、多世代が交流できるような取組や場所づくりが必要。

第3章 外部評価 ～各施策及び関連事業の評価結果

● 総括コメント

個別の評価や指摘事項に共通している課題などについて総括コメントとしてまとめた。

(1) 施策「1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」

～現状把握や原因分析を踏まえた事業展開について～

＜広報の効果を高めるために＞

札幌市では、各事業の実施にあたっては、事業効果を高めるため、セミナーや広報誌等の広報・啓発活動を行っている。しかし、事業所管部局へのヒアリングにおいて、広報等の前提となる現状把握や原因分析が十分になされているとは感じられないものが見受けられた。

どれほど広報を行っても、対象者のニーズに沿ったものでなければ、受け取る側には、意義ある情報とは判断されない。広報の前提として、どのような市民が対象となるのか、そして、対象者が何を求めているのかを的確に分析することが必要である。こうした分析が、効果的な広報につながっていくのではないかと。

＜利用者目線に立った業務の遂行＞

また、福祉サービスの分野においては、申請主義が基本であることから、より利用者目線に立って、まずは、職員一人ひとりが、支援を要する市民に行政サービスがきちんと届いているかという意識を持って業務にあたることが重要である。

＜地域のつながりを機能させる＞

さらに、自ら支援にたどり着けない市民をなくすためには、地域住民同士の支え合いも必要となる。行政には、こうした支え合いを促す地域のネットワークを包括的かつ有機的に機能させる役割が求められると考える。今回、指摘となった事業に限らず、評価対象となった事業全体に共通している課題として、このような役割を十分に認識し、事業を進めていく必要がある。

以上の課題については、市民参加の取組（ワークショップ）においても、実態を踏まえた戦略的な広報活動や地域でつながる仕組みづくりを求める声が多かった。

今後は、これまで以上に現状把握や原因分析を踏まえて事業に取り組んでいくべきである。

(2) 施策「9-10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化」

～市民との課題認識の共有について～

今回の外部評価は、人口減少という社会構造の大きな変化に適切に対応していくために、公共施設等をどのように持続させていくかという中長期的な視点を持って、事業そのものだけでなく、その目的としている施策をより意識した評価を行った。

人口減少による収収減や施設の老朽化対策を考えると、今の施設の総量を現状のまま維持していくには限界があると思う。

市の市有建築物の配置基本方針においても総量抑制の考え方が示されているが、今後、公共施設等の総量抑制を進めていく上では、市民理解が不可欠となる。しかしながら、市民には、人口減少が将来どのような影響をもたらすのかという課題が、十分に伝わっていない面があるように思慮される。

例えば、人口が減少する中で現在の施設の総量を維持しようとする、市民一人当たりの負担は増えていく、などといった課題を市民に分かりやすく伝えていく必要がある。

今後は、市として課題にどのように取り組んでいくのかといったことをはじめ、施策の方向性を示すためにも、市民と課題認識をより一層共有していくことが何よりも重要である。

1 施策「1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」

※本章に掲載の事業等の情報は、平成 28 年度事業評価調査から抜粋している。

(1) 施策の概要

札幌市まちづくり戦略ビジョンに掲げる政策分野「暮らし・コミュニティ」では、人口減少や少子高齢化の進行に伴う高齢単身世帯の増加や、貧困等の様々な要因による社会的孤立の顕在化などに対応するため、地域でのつながりや支え合いによる共助の意識の醸成と、これらを補完する地域社会の仕組みづくりに取り組むこととしている。また、複雑・多様化する地域課題の解決に向けて、まちづくり活動の担い手の育成や活動主体同士の連携などによる地域資源の活用を通じて、地域マネジメントの推進にも取り組むこととしている。

「暮らし・コミュニティ」の施策の一つである「地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり」のうち、今年度の外部評価の対象とした事項は、有償ボランティアに関わる 1 事業、在宅老人福祉に関わる 1 事業、介護人材の確保促進に関する 2 事業、介護予防や認知症対策に関わる 5 事業、在宅医療に関わる 1 事業、地域の保健福祉課題に関する 1 事業、高齢者向け住宅に関する 1 事業、健康寿命延伸に関わる 1 事業のあわせて 13 事業で、平成 28 年度の決算総額で 170,200 千円である。

【a. 施策情報】

政策分野	暮らし・コミュニティ			
政策目標	1 互いに支え合う地域福祉が息づく街			
施策	2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり			
施策の考え	自ら支援にたどり着けない市民の増加に対応するため、支援を必要とする市民を適切に把握する体制を構築する。また、一人一人の状況やライフステージに応じたきめ細やかな支援を行うため、保健・福祉・医療の関係機関の公助による実効性のあるネットワークを強化することで、相談・支援体制の充実を図り、地域で必要な保健福祉サービスが受けられる環境づくりを推進する。			
成果指標	指標	現状値(H26)	目標値(H31)	目標値(H34)
	生活や健康福祉に関して困っていることや相談したいことの相談先がない高齢者の割合	13.6%	11.4%	10%
	障がいのある人にとって地域で暮らしやすいまちであると思う人の割合	22.7%	54.0%	60%
評価対象事業の予算・決算額	平成 28 年度予算額	232,266 千円	平成 28 年度決算額	170,200 千円

【b. 評価対象事業】

事業名	事業の概要	28 年度予算	28 年度決算
地域支え合い有償ボランティア補助事業	日常生活で支援を必要とする高齢者・障がい者等にボランティアを派遣し、低廉な料金で家事援助等の在宅福祉サービスを提供する。	20,500 千円	20,500 千円
在宅老人福祉事業	在宅のわたさき高齢者に対し、介護の充実、保健衛生の向上を図るため、理容師、美容師が自宅を訪問し理美容サービスを行う。	1,400 千円	2,942 千円

事業名	事業の概要	28年度予算	28年度決算
介護人材確保促進事業	介護保険サービス事業者が求める人材を適切に確保できるよう、セミナーなどの開催により自らの事業所の魅力をうまく伝え、求職者の心をつかむ手法の習得を支援するとともに、実践の場として合同就職相談説明会などを開催する。	4,000千円	3,997千円
介護職員人材定着化事業	介護従事者の労働環境向上を図り人材定着を促すため、介護サービス事業所の職員・管理者等を対象とした業務知識・雇用管理等の研修及び能力や経験等に応じた賃金体系等の仕組み（キャリアパス制度）の導入支援を実施する。	7,700千円	7,576千円
生活支援体制整備事業	地域のニーズに応じた社会資源の開発、サービス提供主体や担い手の養成・発掘などを行う生活支援コーディネーターと、関係団体などの協議の場を設置し、地域における生活支援の取組を推進する。	11,386千円	11,266千円
地域ケア会議の拡充	個別、地域、区、市の階層的な会議を通じて高齢者の課題解決を行う「地域ケア会議」について、それぞれの会議に専門職を派遣することにより、住民組織や関係機関の課題解決力を高め、機軸強化を図ります。	7,500千円	1,759千円
在宅医療・介護連携推進事業	医療と介護の両方を必要とする状態になっても地域で安心して暮らせる体制を構築するため、在宅医療機関と介護サービス事業者などの関係者の連携を推進する。	15,248千円	8,166千円
認知症施策推進事業	認知症になっても本人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現を目指し、関係者の連携などを進めながら、認知症の早期診断・早期対応のための支援体制を構築する。	47,233千円	16,517千円
認知症に関する市民及び家族介護者支援事業	認知症の方を地域全体で支える体制を整備するため、認知症の方を支えるボランティアの育成や家族介護者等への支援を行う。	22,489千円	16,027千円
地域の保健福祉課題に応じた健康なまちづくりの推進事業	複雑多様化する地域の保健福祉課題に対応するため、区の保健師が、関係機関との連携・協働による支援のネットワーク強化を図るとともに、住民主体の健康づくり、介護予防の取組などを支援する。	5,600千円	3,756千円
高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業	超高齢社会や医療系・介護系施設の不足などに備え、誰もが住み慣れた地域で「もれ」や「きれめ」なく、安心して療養できるよう在宅医療体制を構築する。	28,100千円	20,018千円
高齢者向け住宅支援事業	高齢者が安心して生活できる良質な住宅の確保を目的とし、高齢者向け優良賃貸住宅（高優良）の家賃減額補助及びサービス付き高齢者向け住宅（サ付き住宅）登録事務を実施する。	60,100千円	57,001千円
健康寿命延伸事業	健康寿命の延伸を図るため、健康阻害要因となっている病気などの分析を進めるとともに、健康や福祉に関するイベントの実施を通じて、分析結果や具体的な予防法などを地域住民に広く周知する。	1,020千円	675千円

事業名	事業の概要	28年度予算	28年度決算
(参考) 介護予防・日常生活支援総合事業 ※ 当事業は、平成29年度から開始している事業であるため、評価対象とせず、ヒアリングのみ実施した。	要支援者の生活支援と全ての高齢者の介護予防を総合的に推進するため、民間事業者や地域の多様な主体を活用してサービスを提供する。	—	—

(2) ヒアリングの結果

当施策に対して行ったヒアリングの結果によって得られた論点・視点は、以下のとおり。

■市民に分かりやすい周知

- ・これから人材不足になる中で、有償ボランティアは戦力になるが、自分の得意分野がボランティアとどう結びつくか、分かっていない人が多いのではないか。
- ・同居のご家族の生の声もあわせて届けることによって、プラスの意味も含めて在宅のイメージを周知しやすくなるのではないか。

■現状把握と原因分析

- ・申請につながる啓発の視点も大事だと思う。そして、効果的な啓発活動を検討するためにニーズや状況の把握が必要になるのではないか。

No.1 ボランティア発掘のための効果的な広報

日常生活で支援を必要とする高齢者、心身障がい者等を支えるボランティアの新たな発掘にあたっては、事業の実施主体である札幌市社会福祉協議会が、各種ボランティア研修等において、事業のPRを行っている。また、市としても、広報さっぽろを活用し、ボランティア募集の広報を行っているとのことであった。しかし、近年、協力会員、利用会員ともに減少傾向にある。

高齢者等を支援する人材が不足する中で、有償ボランティアは重要な戦力になると思われるが、市民の中には、自分の得意分野がボランティアとどう結びつくか、分かっていない人が多いのではないかと考えられる。

については、地域支え合い有償ボランティア補助事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
1	地域支え合い有償ボランティア補助事業	ボランティア参加を検討している市民にとって、自らの得意分野がボランティアになり得ることをイメージできるような効果的な広報のあり方を検討すること。	保) 総務部

No2 介護人材不足の解消に向けた取組

市では、介護事業者が必要な人材を適切に確保することができるよう、介護事業者向けのセミナーを実施するほか、合同就職相談説明会を開催するなどして、事業者の人材確保の取組を支援している。また、介護職員等の離職を防ぎ、定着を図るための取組として研修等を実施している。

しかし、介護人材の確保や定着について、主に事業者の努力に委ねるだけでは課題解決に限界があるのではないかと考える。

セミナーや研修等の実施とともに、その一歩先の取組が、介護人材不足の解消のためには必要であり、人材不足の原因分析を通して、市として、より良い支援制度の提供スタイルを作っていくことが大切ではないかと思われる。

また、介護人材不足の原因の一つとして、介護従事者の賃金等の処遇のあり方が考えられ、国の介護保険制度全体の問題ともなっている。市では、これまでも大都市会議等を通して国に要望書を提出するなど、働きかけを行っているところである。

こうした要望活動にあたっては、まずは介護従事者の処遇についての実態把握を行い、それを国に伝えていくことも市の役割であると考えます。

については、介護人材確保促進事業、介護職員人材定着化事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
2	介護人材確保促進事業 介護職員人材定着化事業	介護人材不足の原因を分析した上で、単に事業者の努力に期待するのではなく、札幌市として人材不足解消のための取組をより一層推進すること。 また、処遇を含めた介護職の現状分析を基に、介護事業所運営の実態を国に伝え、人材確保に向けた対策を講じるよう働きかけていくこと。	保) 高齢保健福祉部

No3 認知症に関する詳細的な取組

急激な高齢化を見据えて、市では、高齢者が住み慣れた地域で可能な限り自立して暮らし続けていけるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を包括的に提供する体制として「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいる。

地域住民と協働で行う取組として、各区に「生活支援コーディネーター」を置き、町内会やボランティア、民間企業など地域と連携を図り、高齢者に対する地域の支え合い体制づくりを行うほか、認知症サポーター養成や認知症コールセンター開設等の取組を行っているという市の説明があった。

介護保険を含む日本の福祉サービスは、申請主義が基本である。そのため、行政サービスの利用要件を満たしていても、申請がなければ利用につながらないという側面がある。行政サービスを市民に等しく受けてもらうためには、制度を市民によく知ってもらうことが必要であり、自ら支援にたどり着けない市民をなくすためには、市として広報や啓発の取組を行うことが重要であると考えます。

さらには、市が取り組んでいる地域の支え合いの体制を包括的かつ有機的につなげていくことも大切であると考えます。

この点については以下のとおり、市民参加ワークショップにおいても多くの意見が出されている。

- ・ 支援制度はいろいろあっても利用につながらないことから、介護制度の勉強会などを開く必要がある。
- ・ 札幌で行われている活動を知らない人が多い。

- ・ 互助のためには、気軽に参加しやすい仕組みづくりが必要である。
- ・ 安否確認のため、自分たちも困っている高齢者がどこにいるか把握するべき。
- ・ ネットワークが広がれば、孤立、孤独死を防げるかもしれない。

については、認知症に関する市民及び家族介護者支援事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
3	認知症に関する市民及び家族介護者支援事業	認知症の心遣いがある場合の相談先や支援制度についての認識不足により、必要な支援を受けられない市民をなくすため、認知症に関する啓発活動や地域において住民同士がつながる仕組みづくりなど、戦略的な取組をより一層推進していくこと。	保) 高齢保健福祉部

No4 在宅医療の市民への周知

市民意識調査から、最期のときを自宅で迎えたいという意向が多かった一方で、同居家族の負担が増えることを懸念して、在宅ではなく入院を選択する市民も多いことが分かった。また、在宅医療を受けていない市民にとって在宅医療の具体的なイメージが湧かないことが課題となっているとの市の説明があった。

在宅医療を進めていくためには、まずは、同居の家族や主たる介護者の負担等についての現状把握が必要と考える。また、在宅医療に対する市民の理解が必要となるが、市民への周知の際は、例えば、同居のご家族の生の声が伝わるような工夫をしていくことが効果的である。

については、高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
4	高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業	在宅医療における介護者の負担について、その現状を把握するとともに、介護者の生の声が伝わるような工夫をすること。	保) 医療政策担当部

No5 在宅医療の推進

札幌市は、大都市の中でも入院病床が多く、在宅医療が進みにくい地域だと考えられる。また、寒冷地であることや北海道特有の家族観等も在宅医療が進まない一因であると思われる。在宅医療を推進するためには、札幌の特徴を踏まえた原因分析が必要である。

一方で、今後、回復期のリハビリに係る病床の需要は増えていくことが見込まれており、在宅医療の需要は高まることも予想されるという市の説明があった。

在宅医療のニーズに対応していくため、医療機関とも連携・協力しながら、それに関わる医療従事者の確保等、バランスのとれた医療提供体制を構築していくことが、より一層求められる。

については、高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
5	高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業	寒冷地あるいは大都市としての札幌の特徴を踏まえて、在宅医療が定着していない原因分析を行うとともに、他都市の事例も参考にしながら、在宅医療をより一層推進するための対策を講じること。	保) 医療政策担当部

No6 札幌市のモデル化を意識した取組の推進

南区役所では、要介護の原因疾病の分析結果をもとに、疾病予防に資する各種取組を実施し、地域住民とともに、健康寿命の延伸に取り組んでいる。

当事業は、札幌市内で高齢化率の最も高い南区での先駆的な取組であるが、成果指標である主観的健康度は、区民からのアンケートによる意識調査により把握しているものであり、その客観性は限界がある。例えば、医療機関との連携等によって区民の健康度をより客観的に把握できるような仕組みが作られるのであれば、区の取組が札幌市のモデル事業として市民全体に広げていけるレベルにまで成熟できるのではないかと考える。

高齢化率の高い南区は、これからの札幌市の縮図でもあり、南区の課題及び取組は参考となるようなモデルを提示していると考えられる。

客観的な分析を通して、広く市全体に普及させていくことによって札幌市のモデルとしていくことができるのではないかと考える。本庁部局においても区の事業を支援していくことが必要である。

については、健康寿命延伸事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
6	健康寿命延伸事業	客観的データに基づいた区民の健康度を把握するなど、当事業が、札幌市のモデルとなることを目指し、取組を進めていくこと。 また、札幌市のモデル化として取り組む際には、本庁部局のバックアップも得ながら進めていくこと。	南) 保健福祉部 保) 保健所

2 施策「9-10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化」

※本章に掲載の事業等の情報は、平成28年度事業評価調査から抜粋している。

(1) 施策の概要

札幌市まちづくり戦略ビジョンに掲げる政策分野「戦略を支える都市空間」では、これまで増加を続けてきた札幌の人口が市制施行後、初めて減少に転じることが見込まれる中、社会構造の変化に適切に対応しながら、都市の魅力や活力を維持・向上していくため、都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全や機能の見直し・複合化、耐震化等に取り組むこととしている。

「戦略を支える都市空間」の施策の一つである「都市基盤の維持・保全と防災力の強化」のうち、今年度の外部評価の対象とした事項は、道路、橋りょうの補修に関わる2事業、下水道施設再構築に関わる1事業、市営住宅の維持更新に関わる1事業、市有建築物の保全に関わる1事業のあわせて5事業で、平成28年度の決算総額で24,468,972千円である。

【a.施策情報】

政策分野	戦略を支える都市空間			
政策目標	9 世界都市として魅力と活力あふれる街			
施策	10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化			
施策の考え	<p>公共サービス経費の増大を抑制しながら、ニーズに合わせた効果的な市民サービスの提供により市民生活の利便性を確保していくために、将来的な人口規模などを見据えながら、都市基盤の効率的かつ計画的な維持・保全や機能の見直し・複合化などを推進する。</p> <p>また、地震や大雨などの災害に強い都市を構築していくために、施設や道路・上下水道などの維持・保全と併せて、耐震化などを計画的に進めることにより、安全・安心な市民生活が実現する都市を目指す。</p>			
評価対象事業の 予算・決算額	平成28年度予算額	29,146,246千円	平成28年度決算額	24,468,972千円

【b.評価対象事業】

事業名	事業の概要	28年度予算	28年度決算
道路等補修事業	道路利用者の安全・安心を確保するために、道路などの補修を計画的に実施する。	3,188,000千円	2,104,639千円
橋りょう長寿命化修繕事業	橋りょうの計画的かつ効率的な維持管理を行うため、事業費の平準化を図りながら予防保全を基本とした修繕を進めていく「橋梁長寿命化修繕計画」に基づく橋りょうの長寿命化を図る。	5,112,530千円	3,509,541千円
下水道施設再構築事業	都市化に合わせて集中的に整備してきた下水道管路及び処理施設について、今後一斉に老朽化が進行していくため、計画的に改築を進めることで下水道機能を維持し、安全で快適な市民生活を支える。	10,156,459千円	9,655,079千円
市営住宅維持更新事業	市営住宅に住んでいる全ての方が安心して快適に生活できるよう、市営住宅の建て替えや耐震化、バリアフリー化などを進める。	5,149,257千円	4,207,356千円

事業名	事業の概要	28年度予算	28年度決算
市有建築物の総合的な保全の推進	今後一斉に更新時期を迎える市有建築物の長寿命化を図るため、計画的に保全します。また、保全に合わせて新エネ・省エネ技術の導入やバリアフリー改善を実施する。	5,540,000千円	4,992,357千円

(2) ヒアリングの結果

当施策に対して行ったヒアリングの結果によって得られた論点・視点は、以下のとおり。

なお、今回の評価対象事業ではないが、公共施設等の管理に係る考え方を整理し取りまとめた「札幌市市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針」について、ヒアリングを実施した。

■人口減少への対応

- ・札幌市の人口は、近い将来、少子化を背景として、市制施行以来、初めて減少傾向に転じることが見込まれているが、今後の社会構造の大きな変化に適切に対応する持続可能なまちづくりの未来の絵を描くべきではないか。
- ・今後の人口減少に対応する、建築物や道路・橋りょう、下水道等のインフラ資産といった公共施設等の供給量や費用負担のあり方についてしっかりと考えていかなければ、施設の補修や修繕を計画的に実施していたとしても、単なる問題の先送りに過ぎないのではないか。

■市民との課題認識の共有

- ・これからは市民に課題を示して理解してもらうためのPRが必要なのではないか。その前提として、市民の理解を得るための課題の分析と方向性が用意されるべき。
- ・公共施設の維持に関する問題は、非常に重要で困難を伴う大きな課題だという認識を市民にも持ってもらう必要がある。市民にどのように伝えていくかということの踏み込みが足りないのではないか。

No.1 補修の事業量のあり方

道路・橋りょうについては、路面等の損傷度を定期的に調査し、重要度や状態等を総合的に判断して補修対象を選定し、事業費の平準化を図りながら補修工事を行っているとの説明が市からあった。

しかし、今後、人口減少による収収減や施設の老朽化対策が一層見込まれる中、今の補修に係る事業量を維持していくことは、難しくなるという基本認識を持つべきである。

また、施設を所有するということは多額の維持管理費を要すること、そして、その施設をどのように利用していくかということについて、市民にも示し理解を求めていく努力が必要となる。こうした課題認識を市民と共有していくべきである。

については、道路等補修事業、橋りょうの長寿命化修繕事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
1	道路等補修事業、橋りょうの長寿命化修繕事業	今後の人口減少を見据えて、道路・橋りょうの補修の事業量及び事業費を分析し、市民にどのように示していくかを検討すること。	建) 土木部

No2 長期推計に基づく財源及び受益者負担のあり方

札幌市の下水道事業では、今後の人口減少社会等を見据え、計画的に改築を進めるために「札幌市下水道改築基本方針」を策定し、今後10年間の中期的事业量の見通しを市民に示し、理解を求めているとの説明が市からあった。

下水道使用料を含めた財源の見通しについては、今後5年間の中期財政見通しを定め、市民にも公表しているとのことであったが、数十年先を見越した今後の事業量のあり方については、それに伴う財源とセットで考えていく必要があると考える。財源等の財政的な見通しについても、長期的なものを市民に示していくことが重要である。

例えば、人口が減少する中で、現在の施設の総量を維持しようとする、市民一人当たりの負担は増えていくはずである。これからは、そのような課題を市民と共有して理解してもらうためにも、情報を分かりやすく伝えていなければならぬと考える。

については、下水道施設再構築事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
2	下水道施設再構築事業	健全な下水道財政を維持していくために、今後の改築等の事業量の長期的な推計を踏まえた財源及び将来的な受益者負担のあり方について分析し、市民にどのように示していくかを検討すること。	下) 事業推進部

No3 市営住宅の供給量のあり方及び民間住宅の活用

市の市有建築物の配置基本方針では、人口減少・少子高齢化社会に対応するため、市営住宅について、総面積の抑制と民間住宅の活用検討という方向性が打ち出されており、その方針を踏まえ、次期の住宅マスタープランの策定を検討しているとの説明が市からあった。

今後の人口減少を見据えて、市営住宅の計画的な維持補修を行い、施設の長寿命化を進めていくためには、予算に限りがある中で、今までどおりの考えに基づく供給量を今後も維持していくことは困難と思われる。市営住宅の供給量のあり方について検討が必要である。

また、市が施設を保有・提供していくことにこだわらず、コスト試算を行ったうえで、例えば、家賃補助制度等により、民間住宅を活用することなどについても検討が必要と考える。

については、市営住宅維持更新事業に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
3	市営住宅維持更新事業	今後の人口減少を見据えて、市営住宅の供給量のあり方について検討すること。 また、市が施設を保有・提供するだけでなく、家賃補助などの民間住宅の活用等について検討すること。	都) 市街地整備部

● 局別評価対象施策・事業一覧

対象局	施策/事業	指摘項目 (No.)
保健福祉局	1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり	
	地域支え合い有償ボランティア補助事業	1
	在宅老人福祉事業	
	介護人材確保促進事業	2
	介護職員人材定着化事業	
	生活支援体制整備事業	
	地域ケア会議の拡充	
	在宅医療・介護連携推進事業	
	認知症施策推進事業	
	認知症に関する市民及び家族介護者支援事業	3
	地域の保健福祉課題に応じた健康なまちづくりの推進事業	
	高齢者等の在宅医療ネットワーク推進事業	4,5
(参考) 介護予防・日常生活支援総合事業		
建設局	9-10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化	
	道路等補修事業	1
	橋りょう長寿命化修繕事業	
下水道河川局	9-10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化	
	下水道施設再構築事業	2
都市局	1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり	
	高齢者向け住宅支援事業	
	9-10 都市基盤の維持・保全と防災力の強化	
	市営住宅維持更新事業	3
	市有建築物の総合的な保全の推進	
南区	1-2 地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり	
	健康寿命延伸事業	6

● 行政評価委員会の委員構成

委員長	いしい よしはる 石井 吉春	北海道大学公共政策大学院 特任教授
副委員長	かにえ あきら 蟹江 章	北海道大学大学院経済学研究科 教授
委員	いしかわ のぶゆき 石川 信行	石川公認会計士事務所 公認会計士
委員	よしだ きとこ 吉田 聡子	(株) 桐光クリエイティブ 代表取締役
委員	かみおか ゆきこ 上岡 由紀子	上野・横山・渡 法律事務所 弁護士

第4章 参考資料

市民参加の取組（ワークショップ）報告書

平成 29 年度
札幌市行政評価 市民参加ワークショップ
報 告 書

平成 29 年 8・9 月 実施

札幌市総務局

目 次

I. 市民参加ワークショップの概要

1. 概要

- (1) 実施目的..... 22
- (2) 成果の活用..... 22

2. 検討テーマ

- (1) 設定した検討テーマ..... 23
- (2) 設定の理由..... 23

3. 参加者

- (1) 参加者の募集方法..... 24
- (2) 参加人数・グループ（チーム）分け..... 24

4. 開催までの流れ..... 25

II. 市民意見のまとめ

1. 第1回ワークショップ「アイデアの抽出」

- (1) 各グループで共通して出された意見..... 26
- (2) 各グループから出された意見..... 28

2. 第2回ワークショップ「アイデア実現に向けた方策の検討」

- (1) 各グループで共通して出された意見..... 30
- (2) 各グループから出された意見..... 32

III. ワークショップの開催結果

1. 第1回ワークショップ「アイデアの抽出」

- (1) 開催概要..... 36
- (2) 第1回の目標..... 36
- (3) プログラム..... 36
- (4) プログラムの内容..... 37
- (5) 当日の様子..... 38
- (6) 事前に寄せられた質問・札幌市からの回答..... 40
- (7) ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート..... 41

2. 第2回ワークショップ「アイデアの抽出」	
(1) 開催概要.....	48
(2) 第1回の目標.....	48
(3) プログラム.....	48
(4) プログラムの内容.....	49
(5) 当日の様子.....	50
(6) 第1回で寄せられた質問・札幌市からの回答.....	52
(7) ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート.....	53
IV. 参加者アンケートの結果	63
V. 使用した資料	
1. 事前送付資料	
(1) 検討テーマ説明資料.....	69
(2) 事前質問票.....	73
2. 第1回ワークショップ資料	
(1) プログラム.....	74
(2) ガイダンス説明資料.....	76
(3) アイデア書き出しシート（第2回までの宿題）.....	87
3. 第2回ワークショップ資料	
(1) プログラム.....	88
(2) ガイダンス説明資料.....	90
(3) 参加者アンケート調査票.....	102

I. 市民参加ワークショップの概要

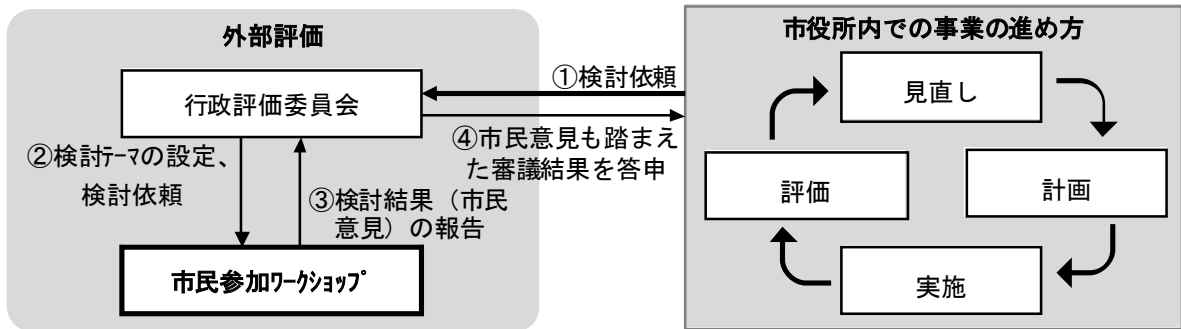
1. 概要

(1) 実施目的

札幌市では、行政評価における外部評価の取組として、「市民参加ワークショップ」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」を実施しています。

外部評価は、札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について、行政では気づかない点について審議・評価するための取組で、この市民参加ワークショップは、札幌市行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマについて、一般市民の方々からご意見をお聞きするために実施するものです。

■行政評価の仕組み



(2) 成果の活用

市民参加ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用され、今後の事業の改善見直しに向けた検討材料の一つとしています。その結果、改善の方向性が明確になった事柄については、順次、予算編成等へ反映させていくほか、中長期的な取組が必要な事柄については、継続的な検討を行っていくこととしています。

2. 検討テーマ

(1) 設定した検討テーマ

地域で支える介護～私たちにできること～

- ・自分でできる日頃からの備え（自助の取組）
- ・となり近所の支え合い（互助の取組）

(2) 設定の理由

平成29年7月1日現在、札幌市の高齢化率は25.8%となり、平成37年には30.5%になると予測されています。

このような超高齢社会において、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、札幌市を含む全国の自治体では、住まい・医療・介護・予防・生活支援を包括的に確保する体制である「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいます。

「地域包括ケアシステム」構築のためには、介護・医療などの専門職によるサービスと地域住民同士での支え合い＝互助が両輪となります。

上記を踏まえて、札幌市行政評価委員会では市民の皆様にも「地域住民同士での支え合い＝互助」の取組としてどのようなことが考えられるか、そして、それを踏まえて札幌市がどのようなバックアップを行うべきかをお聞きしたいと考え「地域で支える介護～私たちにできること～」を検討テーマとして設定しました。

また、その内容としては「自助」と「互助」に分けられることから、より具体的なサブテーマとして「自分でできる日頃からの備え（自助の取組）」「となり近所の支え合い（互助の取組）」を設けた次第です。

3. 参加者

(1) 参加者の募集方法

参加者の募集にあたっては、無作為抽出の18歳以上の市民3,000名に参加案内を送付したほか、例年、比較的若い世代の参加が少ないことから、専門学校等の協力を得て、学生の参加を募り、45名※の市民に参加いただきました（※いずれかの回に参加くださった方）。

■参加者募集の概要

○参加資格（以下の全てを満たす方）

- ・現在札幌市在住の方（転居等で札幌市外へ転出された方は応募できません）
- ・札幌市職員ではない方
- ・全2回のワークショップを通じて出席できる方
- ・ワークショップは公開で行い、報道機関による撮影や傍聴者が会場に入ること、参加者個人が特定できる形で記録を公開する必要があることに承諾いただける方
- ・以上を踏まえて「参加承諾書」をご提出いただいた方

○参加の謝礼：クオカード5,000円分（全2回に参加いただいた方）

(2) 参加人数・グループ（チーム）分け

本ワークショップにおけるグループワークは、地域特有のご意見が出されることを考慮し、概ね参加者の居住区ごとに、①中央区、②北区、③東・白石区、④厚別・清田区、⑤豊平・南区、⑥西・手稲区の6チームに分かれて行いました。

■参加者のグループ分け・各回の参加者数（名）

グループ名(区)	計	性別		年代							各回参加者数	
		男性	女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	第1回	第2回
①中央区	7	4	3	1	1	1	1	2	—	1	7	7
②北区	9	4	5	1	—	—	1	4	—	3	9	8
③東・白石区	7	4	3	1	—	—	2	1	2	1	7	5
④厚別・清田区	8	3	5	—	2	—	1	2	1	2	8	8
⑤豊平・南区	8	5	3	—	1	3	2	—	2	—	8	8
⑥西・手稲区	6	3	3	1	2	1	1	—	—	1	6	5
計	45	23	22	4	6	5	8	9	5	8	45	41

4. 開催までの流れ

■参加者募集案内を市民に発送（平成29年7月21日（金））

■参加承諾書の返送締め切り（8月4日（金））

■第1回ワークショップ「アイデアの抽出」（8月26日（土））

（概要）

- ・ 検討テーマに関するガイダンス、事前質問票にて寄せられた質問への回答
- ・ グループワーク 1：検討テーマに関する追加の疑問点を抽出
- ・ グループワーク 2：取組のアイデアと、そのアイデアのもととなった課題を抽出し、親和図法（KJ法）にて整理
- ・ グループワーク 3：出された取組のアイデアをシールアンケート法（シール投票）によって評価し、第2回で検討を進める「取組」を決定、仮の「プロジェクト名」を命名
- ・ グループ発表を行い、全体で検討内容を共有

■第2回までの宿題「アイデア書き出しシート」への記入

- ・ 個々人で自分のグループの「取組」をより良いものにするために工夫・付加するアイデアを検討
- ・ 検討したアイデアは配布した「アイデア書き出しシート」に記入し、次回持参

■第2回ワークショップ「アイデア実現に向けた方策の検討」（9月9日（土））

（概要）

- ・ 前回の振り返り
- ・ グループワーク 1：「宿題」として考えてきたアイデアを出し合いながら「取組」をブラッシュアップ（磨き上げ）
- ・ グループワーク 2：「取組」を実現する際の「課題」を抽出するとともに、その解決策を検討
- ・ グループワーク 3：これまで検討してきた「取組」に、正式な「プロジェクト名」を命名
- ・ グループ発表の後、全体で各「プロジェクト」について検討（意見・アイデア出し）

Ⅱ. 市民意見のまとめ

1. 第1回ワークショップ「アイデアの抽出」

(1) 各グループで共通して出された意見

第1回では検討テーマについて、取組のアイデアと、そのアイデアのもととなった課題を抽出・整理し、その後、整理した取組のアイデアについてシールアンケート法（シール投票）によって評価しました。

その結果、各グループ共通の意見として、次のような取組のポイントが出されました。

- 1) コミュニケーションの活性化、つながりづくりの重要性
- 2) 健康づくり、運動・スポーツ
- 3) 高齢者に限定されない多世代間の交流

1) コミュニケーションの活性化、つながりづくりの重要性

いずれのグループからも「コミュニケーション」の活性化や「つながりづくり」のための取組の重要性が指摘されました。

その元になった高齢者に関する課題認識としては、「孤立対策・防止」「孤独死予防」「認知症予防」が挙げられています。

グループ	出された意見（ポイント）	元になった課題認識
①中央区	・島「コミュニケーション」がシールアンケートにて最多得票	・孤独死の増加
②北区	・島「人とのつながり」がシールアンケートにて最多得票 ・第2回で検討する取組を「“私がはじめる” みんなでつながるプロジェクト」と命名	・認知症の予防の必要性 ・健康状態の確認（特に一人暮らしの場合は難しい） ・一人暮らしの負担軽減
③東・白石区	・島「コミュニケーション」がシールアンケートにて最多得票 ・第2回で検討する取組を「多様なコミュニケーションを取れる施設を近くにつくるプロジェクト」と命名	（下記のような高齢者の存在） ・他人への興味がない ・外に出たがらない ・近所とのつながりが少ない ・友達が少ない
④厚別・清田区	・島「つながり」が作成された ・第2回で検討する取組を「ゆる～いつながりづくりプロジェクト」と命名	・家に居続けるだけでは他者とながれない ・孤独にならないことが大切 ・引きこもりにならないことが大切 ・ひとりで倒れていたら悲しい

⑤豊平・南区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「つながりを大切にする」を中心として、「助け合いの関係・地域の信頼関係」「集まる機会と場、社会的役割をつくる」「助け合い（企業と地域の関わり）」といった島が作成された 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知機能を保つ必要性 ・認知症を予防する ・安否確認の必要性 ・高齢者の孤独死が増えている
⑥西・手稲区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「地域との交流」が作成された ・第2回で検討する取組を「えんがわプロジェクト」と命名 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になりにくい生活習慣として“人との交流”“知的行動習慣”が大切 ・高齢者の孤立や生活困難 ・孤独死

2) 健康づくり、運動・スポーツ

いずれのグループからも、心身、特に身体の「健康づくり」や「運動」「スポーツ」に関する取組アイデアが出されています。

そのベースには、主に高齢者の「身体機能の低下抑制」「生活習慣病の予防」「認知症の予防」が必要であるとの課題認識があります。

グループ	出された意見（ポイント）	元になった課題認識
①中央区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「健康維持」が作成された。 ・そういったことも含めた「イベント開催」の必要性が指摘された 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴う身体機能の低下（思うように体が動かせない） ・若いころよりも記憶力が低下してきている
②北区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「運動」が作成された 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的に衰えないようにする必要性
③東・白石区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「スポーツ」が作成された。 ・そういったことに活用できる「施設」が「もっとたくさん。近くにあると良い」との指摘があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に対する意識はあるが、行動していない。行動することが大切
④厚別・清田区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「体力づくり」「健康的食事」「体のメンテナンス」が作成された 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気にならないことが大切 ・寝たきりにならないことが大切
⑤豊平・南区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「体の健康」「心の健康」が作成された ・上記について学ぶ場として、第2回で検討する取組を「セカンドカルチャースクール」と設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病を予防する ・好きなことをしてストレスを発散することが大切 ・脳の活性化を促す
⑥西・手稲区	<ul style="list-style-type: none"> ・島「体力・健康」が作成された 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、生活習慣病予防

3) 高齢者に限定されない多世代間の交流

前述の「①コミュニケーションの活性化、つながりづくりの重要性」とも関連する事柄として、特に⑤豊平・南区と⑥西・手稲区グループから、また、①中央区、③東・白石区からも「高齢者」に限定されない多世代間の交流に関連する意見が出されています。

グループ	多世代間の交流に関する意見
①中央区	・小学生に挨拶されて無視している大人がいた
②北区	—
③東・白石区	・若い人は高齢者に対する知識がない
④厚別・清田区	—
⑤豊平・南区	・年代に関わらず集まる場所をつくる（コミュニティスペース） ・高齢だけにとらわれず、様々なかかわりをつくることで役割・楽しみとなる
⑥西・手稲区	・小学生とお年寄りの方の交流 ・世代を超えてつながることが出来る「場」を作る ・小中高校生は同世代でのつながりがほとんど

(2) 各グループから出された意見

①中央区（42 頁参照）

「コミュニケーション」（活性化のために）→「イベント開催」（することにより）→「マッチング」（が行われ、それにより）→「コミュニケーション」（が活性化される）…というような「循環」を生むこと・留意することが強調されています。

「何かに困っている人」と「何かをやってあげたい人」の「マッチング」の大切さが挙げられているのも特徴的です。

上述したような「循環」が特に意識された結果、第2回で検討する取組は「**ハートDE 見守り気持ち反映循環プロジェクト**」と設定されました。

②北区（43 頁参照）

島「IT の活用」が作成され「AI」「SNS」「ゲーム」「動画」といった IT を「人とのつながり」づくりのために積極的に活用していこうという提案がなされています。

そういった関連も含めて「疑問点」として「互助とプライバシー／個人情報保護法とのバランス／兼ね合いをどうするか」といった懸念も示されています。

第2回で検討する取組は「**“私をはじめ” みんなでつながるプロジェクト**」とされましたが、「私をはじめ」と「自助」の大切さが指摘されています。

③東・白石区（44 頁参照）

「コミュニケーション」について、「外に出たがらない」高齢者が存在すること、「外に連れ出す」ことが必要との意見が出されています。

また「スポーツ」について「冬に歩く所がない」との課題が出されたが、これも「外」「外

出」につながる意見です。

そういった「外出」を促すために「福祉センターをもっとたくさん。近くにあると良い」との意見が出されました。

上記の流れから「施設」を設置することが主眼とされた結果、第2回で検討する取組は「**多様なコミュニケーションを取れる施設を近くにつくるプロジェクト**」と設定されました。

④厚別・清田区（45 頁参照）

「自助」の取組として、自ら「つながり」を作ることの大切さが指摘されました。

次いで、「互助」について話し合われた際に、「お手伝い」や「声かけ」「おすそわけ」などの気軽な取組についての意見が出されています。

「お手伝い」の中にあるように「負担にならない範囲で行う」といった意見が共感を得た結果、第2回で検討する取組のタイトルとして、「**ゆる～いつながりづくりプロジェクト**」が設定されました。

⑤豊平・南区（46 頁参照）

「体／心の健康」や「介護の実態を知る」などの「学び」によって、「常に刺激を受け」「セカンドライフを前向きに！」生きる、「集まる機会と場、社会的役割をつくる」といった提案がなされています。

こういった「学び」が着目された結果、第2回で検討する取組は「**セカンドカルチャースクール**」と設定されました。

また、高齢者を支えるために、「学び」とは別に「企業と地域の関わり」が大切であること、企業の役割についても指摘されています。

⑥西・手稲区（47 頁参照）

このチームからは、「地域との交流」として、特に「小学生とお年寄りの方の交流」「昔あそび」「子ども食堂」というように、「世代を超えてつながる」＝多世代交流についての意見が多く出されました。

また、そのための場として「児童会館」「老人福祉センター」「町内集会所」など既存施設を活用するなどして「ふらっと立ち寄れる場所を多く作る」ことが大切ではないかという意見が出されています。

「世代を超えて」「ふらっと立ち寄れる場所」＝「えんがわ」に着目された結果、第2回で検討する取組として、「**えんがわプロジェクト**」が設定されました。

2. 第2回ワークショップ「アイデア実現に向けた方策の検討」

(1) 各グループで共通して出された意見

第2回では、第1回の最後に検討を進める「取組」を決定しましたが、それについて磨き上げるとともに、その「取組」を実現する際の「課題」を抽出し解決策を検討しました。

その過程で、「取組」を実施していく際のポイントとして、次のような事柄が各グループ共通の意見として出されています。

- | |
|--------------------------|
| 1) ボランティアによる担い手確保 |
| 2) 既存施設・スペースの活用 |
| 3) 高齢者に限定されない多世代間の交流 |
| 4) 普段からのコミュニケーションが取組のベース |

1) ボランティアによる担い手確保

まちづくり・地域づくりに関する様々な取組における最大の課題は、「誰が取組を担うのか」です。ワークショップでも5つのグループにおいて、「誰が担うのか」について意見交換が行われ、最も有力な「担い手」として「ボランティア」が挙げられました。

グループ	出された意見（ポイント）
①中央区	・島「人・担い手」の内容として「ボランティアの活用」が出された
②北区	・島「誰が？」の内容として下記が出された ○町内会で子ども見守り隊のように「シルバー見守り隊」を作る ○暮らしサポートボランティア ○ゴミ出しサポート隊
③東・白石区	—
④厚別・清田区	・島「コーディネート（調整）する人が必要」の内容として下記が出された ○「見守り隊」「手伝い隊」を作る ○町内会で希望者を集め、支援ボランティア等の体験会を実施
⑤豊平・南区	・島「人材の育成」の内容として「地域でのボランティア活動（若い人から高齢者までその人の強みを活かす）」が出された
⑥西・手稲区	・島「誰が？」の中に、島「ボランティア・担い手」が作成された

2) 既存施設・スペースの活用

5つのチームから、取組を行うための核となる場として「既存施設・スペース」を活用する提案が出されました。

その反面、新規施設に関する意見は殆ど出されませんでした。

グループ	出された意見 (ポイント)
①中央区	・公園や既存施設を利用
②北区	—
③東・白石区	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設の有効活用 ・マンション等の共用スペース (テニスコート・公園等) ・今ある、使用できる公共施設 ・小学校を無料で開放してほしい。特に冬は体育館など ・地区センターの体育館を月2回くらい無料で開放 ・空き地を利用
④厚別・清田区	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の利用 ・行きやすい地元スーパーを利用
⑤豊平・南区	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会館を使う ・学校の空き教室を活用
⑥西・手稲区	<ul style="list-style-type: none"> ・「えんがわ」として活用できる場所。町内集会所、児童会館、菜園、マンションなどの共用部、施設のロビーやラウンジ ・学校廃教室、介護保険施設、高齢者住宅 (有料老人ホーム、サ高住)、公民館、空き家

3) 高齢者に限定されない多世代間の交流

この意見については第1回でも指摘されていました。

4つのチームから、高齢者だけではなく、多世代を対象にした取組や場所に関する意見が出されています。

グループ	内容
①中央区	・高齢者や子どもと触れ合える場所を作る
②北区	—
③東・白石区	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と小学生と一緒にウォーク教室 ・子どもと一緒に遊べる施設
④厚別・清田区	—
⑤豊平・南区	・「児童会館」の名を改めて、同施設の子どもと共用
⑥西・手稲区	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代コーラス ・多くの世代にとって、ふらっと立ち寄るメリットのある場所にする ・働き盛りにも利用してもらおう工夫

4) 普段からのコミュニケーションが取組のベース

3つのチームから、挨拶等の気軽な普段からのコミュニケーションが、高齢者を支える取組のベースとして大切との意見が出されています。

グループ	内容
①中央区	・近所の人たちが顔合わせ（コミュニケーション）できる機会を設ける
②北区	・始めは「おはようございます」から ・近所に住む高齢者には、大きな声で挨拶して顔見知りになること ・普段からの近所づきあい。どうやってつながりを作るのか ・お隣さんへの声かけ ・井戸端会議の復活
③東・白石区	—
④厚別・清田区	・まずあいさつから ・出かける前の一声 ・近所づきあい ・顔をあわせること・集まることが大事 ・何かをしながら話せる井戸端会議 ・とにかくご近所づきあい
⑤豊平・南区	—
⑥西・手稲区	—

(2) 各グループから出された意見

①中央区（54・55頁参照）

「ハート DE 見守り気持ち反映循環プロジェクト」として、特に「循環」を強く意識して、高齢者の見守り等の取組に関する検討が行われました。そういった取組を回していくための軸として「ポリシー（方針）が大切」であることが特に強調されましたが、これが中央区チームの最大の特徴です。

取組の中核である「見守り」のための仕組みとして「AI ロボット」「操作の簡単なインターネット端末」「センサー」などの IT 機器が挙げられているのが面白い点です。

取組を行っていくための要素として「人・担い手」「施設・場所」「イベントとサービス」「要望・情報の収集」が挙げられており、これらが関連しあって「見守りの仕組み」を形作っていくという提案です。

まとまった意見として、高齢者の「要望・情報の収集」の必要性が指摘されたこともこのチームの特徴です。

最終的なプロジェクト名は、第1回で立案されたものと同様の「ハート DE 見守り気持ち反映循環プロジェクト」とされました。

②北区（56頁参照）

「“私がはじめる” みんなでつながるプロジェクト」として、どうやって高齢者と地域住民が「つながる」かという検討が行われました。

そのための取組アイデアが「つながりづくり」「具体的な取組」「IT の活用」にまとめられ、それぞれについて、課題、課題の解決策が挙げられているという構成です。

「つながりづくり」としては、日頃の挨拶や、地域の行事への参加等の必要性が指摘されています。その課題として「声かけ（だけで）も難しい」こと、地域コミュニティの担い手である「町内会の課題」が挙げられており、そういった課題やその解決策の検討に話し合いの時間が割かれました。

「具体的な取組」としては多種多様な事柄が挙げられましたが、「誰が？」担うのかという課題が出されています。

第1回のこのチームの特徴は、ITを「人とのつながり」づくりのために積極的に活用している点でしたが、第2回でも「ITの活用」として、さまざまなアイデアが出されています。

最終的なプロジェクト名は「つながりづくり」に検討の力点が置かれたことを踏まえ「**“こんにちは”で始める“無理なく”つながる**」とされました。まずは気軽な挨拶から、無理のない「普段からの近所づきあい」を作っていくことが大切という指摘です。

③東・白石区 (57 頁参照)

「多様なコミュニケーションを取れる施設を近くにつくるプロジェクト」として、特に「施設」を作ることを目指した検討が行われました。

その結果、「プログラム」を中心に「情報発信」「道具の貸し出し」「ハード面」等が島としてまとめられました。

「施設」を作ることを目指したものの「ハード面よりソフト面のアイデアが大切」であることが指摘され、結果として「プログラム」について最も多くの意見が出されました。

「プログラム」の中では「施設を作る前に気運を高める」ために「ワークショップなどを行って『自分ごと』にする」とのアイデアが注目されます。

「施設」で「プログラム」を実施することを踏まえて「道具の貸し出し」では、「道具を集める」こと、「道具のメンテナンス」の必要性が指摘されています。

「ハード面」として施設について挙げられていますが、主に近隣の既存施設・空きスペースを活用することが想定されています。

施設に関連して、「施設のまわり」のあり方や「散歩コースを作る」「散歩マップを配布」のように、施設周辺も活用することが提案されています。

最終的なプロジェクト名は「**NEWとなり組 おらが施設プロジェクト**」です。「古臭くない」コミュニティのつながりづくりと、施設を「自分ごと」として愛着を持つことの大切さが込められた名称となっています。

④厚別・清田区 (58・59 頁参照)

「ゆる〜いつながりづくりプロジェクト」として、まず「『ゆる〜いつながりづくり』に必要なこととは？」何かについて検討を行いました。

その結果出された意見は、「お手伝いをする・受けるときの作法・気持ち」「出かける・さそう習慣づくり、どうする?」「つながりづくりのための取組」「健康づくりのための仕組み」「町内会」「インフラ整備」にまとめられました。

特に「お手伝いをする・受けるときの作法・気持ち」に重点が置かれて意見交換が行われ、

その具体的な表れとして「出かける・さそう習慣づくり、どうする？」などの意見が出されています。

こういった流れから「お手伝い」が注目され、意見交換は『お手伝い』の仕組みとして何が必要？」かという検討に移行しました。

その「仕組み」として、それぞれが高齢者に対してできることを明らかにする「できる事回覧・コミュニティノートの設置」、「コーディネート（調整）する人が必要」であること、「問題の深刻さ（どれくらい助けが必要か）を相手に伝え」られること（また、その技能や作法）、が挙げられ、その仕組みは「気軽に参加しやすい」ものであることが必要であるとの指摘がなされています。

なお、「コーディネートする人が必要」という指摘が出されたのもこのチームの特徴です。

そういった「仕組み」が展開される場として「ゆるカフェ」が最終的に出され、その結果、プロジェクト名は「ゆるカフェごようききプロジェクト」と命名されました。

⑤豊平・南区チーム（60 頁参照）

「セカンドカルチャースクール」として、高齢者が生涯学習を通じて人生を有意義に送るための「スクール」のあり方について検討を行いました。

『大学』のようなカリキュラム」が中核に置かれていますが、そのためには「場所（集う機会）」「人材の育成」が必要であるという整理をしています。

「場所（集う機会）」については、そこまでの「交通手段」が確保されていることの必要性が指摘されていますが、そういった送迎（巡回）バスなどのイメージとして「いかにも『介護』な感じは嫌」との指摘もありました。

「自宅で」として VR（仮想現実）機器の使用により、自宅で学ぶ・コミュニケーションを行うアイデアが挙げられていることも注目されます。

「周知・案内」においては「モデル地域…により周知にもつながる」として実践・成功事例により、それが自然に周知につながっていく流れを描く意見が注目されます。

前回の流れも踏まえ、「スクール」に関する検討とは別に、「地域と企業がつながる」ことで地域コミュニティが活性化し、高齢者を支えることにもつながっていくのではないかという島が形成されました。

その中では、企業が持つ「シーズ（事業・製品・取組の種）を拾う」こと、企業側が高齢者等の「ニーズ（要望）を知る」こと、それらが合わさることで「地域と企業がつながる」のではないか、また、それは「大学」にも活かされるのではないかという提案がなされています。

以上のように「スクール」に関する検討を主流として意見交換が行われた結果、プロジェクト名は「Olds, be ambitious like this young man!!」とされました。これはクラーク博士の言葉「Boys, be ambitious like this old man.」をもじったもので、「老いても若者に負けないように大志を抱き学び続けよう・取り組んでいこう」というメッセージが込められています。

⑥西・手稲区チーム（61・62 頁参照）

「えんがわプロジェクト」として、高齢者が気軽に集う「えんがわ」のあり方について検討が行われました。

「何を？」行うかとして、主に「常設イベント」「体力づくり」「季節のイベント」が出されました。「えんがわ」では、これらが順番に、あるいは並行して行われているイメージです。また、「何を？」では、前回と同様「多世代コーラス」「多くの世代にとって、ふらっと立ち寄るメリットのある場所にする」「働き盛りにも利用してもらおう工夫」というように、特に多世代の交流をめざす意見が多く出されています。

「どこで？」としては、「近隣」施設のほか「札幌ドーム」のような「大規模公共施設・空間で」というアイデアも出されています。これら「施設」への「交通アクセス」の必要性がまとまって指摘されていることもこのチームの特徴です。

「だれが？」については、「運営主体がはっきりしていること」の必要性、「ボランティア・担い手」の必要性が指摘されています。また「地域ごとのニーズ・カラーを大切にする」という指摘が注目されます。これらのような検討を踏まえ、最終的なプロジェクト名は「**つながり・ぬくもり・みまもりを大切にする～えんがわプロジェクト**」と命名されました。

Ⅲ. ワークショップの開催結果

1. 第1回ワークショップ「アイデアの抽出」

(1) 開催概要

- ・日時：平成29年8月26日（土）13:30～17:15
- ・会場：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
- ・参加人数：45名

(2) 第1回の目標

自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合いとして
地域においてどのような取組が考えられるか
ご意見をいただき、整理すること（**アイデアの抽出**）

(3) プログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「アイデアと課題の抽出」
 - ・グループワーク3「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

(4) プログラムの内容

ガイダンス、事前質問票への回答

検討テーマやグループワークに関する説明の後、事前に寄せられた質問に対して回答しました。

グループワーク1「追加の疑問点抽出」

検討テーマに関して追加の疑問点がないか、グループ内で確認しました。

グループワーク2「アイデアと課題の抽出」

取組のアイデアと、そのアイデアのもととなった課題を自由に出し合った後、それらを親和図法（KJ法）にて整理しました。

グループワーク3「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」

整理した取組のアイデアをシールアンケート法（シール投票）によって評価しました。その評価も踏まえつつ、グループ内での話し合いで、第2回で検討を進める「取組」を決定し、その「取組」に仮の「プロジェクト名」を命名しました。

グループ発表

各グループでの検討内容を発表しあい、全体で共有しました。

第2回までの宿題「アイデア書き出しシート」の配布

個々人で自分のグループの「取組」をより良いものにするために工夫・付加するアイデアを検討していただくために「アイデア書き出しシート」を配布し、第2回に持参いただけるようお願いしました。

(5) 当日の様子



①ワークショップの進め方等についてガイダンス



②アイスブレイク「他己紹介」を実施



③グループワークの様様



④グループワークの様様



⑤グループ発表の様様

(6) 事前に寄せられた質問・札幌市からの回答





参加者にはワークショップの開催前に、検討テーマに関する事前説明資料と合わせて事前質問票を送付し、検討テーマや行政評価、ワークショップ等に関する質問を、事前にお寄せいただけるようにしました。

その結果、次の質問が出されました。

No.	ご質問の内容	札幌市からの回答
1	<p>検討テーマについて。</p> <p>「地域包括ケアシステム」の構築に取り組む目的は「高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくため」と定義されておりますが、住み慣れた地域で暮らし続ける」とはどのような状態を指すのでしょうか？</p> <p>①札幌市で出生して一度も市外に転居することなく老後をそのまま札幌市（内）で暮らす高齢者。</p> <p>②少なくとも生産年齢期から継続して老後も札幌市内で暮らす高齢者。</p> <p>③生活環境や利便性、子息を当てにして老後に他市町村から札幌市へ生活の場を移した高齢者。</p> <p>①～③の高齢者を想像しますが、特に③において今回のテーマの検討対象となるのか疑問に思っています。</p> <p>このあたりの扱い方によっては検討の方向性が違ってくると考えますので、ご教示の程お願いいたします。</p>	<p>「住み慣れた地域で暮らし続ける」とは、居住年数に関わらず、今後、札幌市で暮らしていきたい方が要介護状態になっても安心して暮らしていけるよう支えるということ です。</p>

(7) ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート

凡例

- ◎  「取組」のアイデア
- ◎  アイデアの元になった課題認識
- ◎  取り組むべきと考えるアイデア（島）への投票
- ◎  （太線）第2回ワークショップで検討する「取組」の元となった意見（島）

中央区チーム

健康維持 ●●

高齢者に不足しがちな成分を含む食事・サプリメント等の摂取。たくさん食べて、たくさん動く。食生活を改善する。

食べないと動けないし、動かないと食べられない。

独身の時より野菜を多く食べられるようになった。

一人で暮らしている人が、たまにたくさんの人と食べたら楽しい。

個人年金に加入する。

早いうちに勤められたから。

家庭でも実践できる簡単な運動やストレッチを行う習慣をつける。

高齢化に伴う身体機能の低下（思うように体が動かせない）。

脳の機能低下（物忘れ）防止のための習慣（脳トレ、指先を使う作業等）。

若いころよりも記憶力が低下してきている。

食事会をする。

イベント開催 ●

スマホや携帯電話の簡単な操作ができるようにセミナーを開催する。

高齢者が興味のあるマーケットがあれば！

バザー。高齢者は不用品（洋服など）の処分がしたい。

小さなお祭りをする。

犯罪等によるイベントの減少。

大きいお祭りだと、小さい子どもや高齢者が近寄りづらいので、近つきやすい、小さなお祭りをする。

コミュニケーション ●●●●

配達サービスの利用。安否確認。

ボランティア活動を新聞広告に載せる。

ポスティングによるコミュニケーション。

地域の特性の明確化。

ネットワークをつくる（相互の見える化）。

自己紹介できる場を設ける。

マンションに住んでいる人の名前を知る（誰かわからない）。

近所の人と話す（挨拶から）。

あいさつ。

孤独死の増加。

高齢者は読まなくても新聞を取っている人が多い。

近所の人との距離が広がらない。

小学生に挨拶されて無視している大人がいた。

あいさつをすると気持ちいい朝を迎えられる。

電子機器の操作に慣れていないくて、思っていたように連絡が取れない。

マッチング ●●●

何に困っているのか、分かるような仕組みを作る。

してほしいこと（ニーズ）を発信できる場を提供する。

問題点の共有化。

提供できるサービスの共有化。

個人情報の取り扱いをどうするか。

雪かきの手伝いの範囲でどこまでやってあげたら良いか困った。

けっこう、やってあげたい時な気持ちがある。

どんな人なのか、何を欲しているのかかわからない、声も掛けられない。

第2回で検討する取組：ハートDE見守り気持ち反映循環プロジェクト

北区子一ム

●●●●●●●●●● 制度を知ろう

- 民生委員の充実と低年齢化。
- 施設支援を知ってもらえば、予防につながる。
- 包括センターの名刺を各戸に配る。インバクトのあるもの。
- 支援制度はいろいろあっても利用につながる。
- 介護制度を理解できる勉強会を開く。
- 介護保険の制度が難しいと思うので。
- 現在 80 すぎの人たちには、もっと知らせれば、回覧板等に毎回のせる。
- 本人・家族の利用しようとする心構えをどう育てるか。
- 学校での認知症サポーター養成講座の開催。
- 学生の認知症に対する理解が少ないと感じたため。

希望

- 高齢になっても働ける場所を作る。
- 年齢に関係なく元気な方もいるから。
- 美容室など無料にしてほしい。
- お金がかかると。

●●●●●●●●●● 運動

自分でできること

- スポーツジムへ気軽に参加できるような環境づくり。
- 夏休みのラジオ体操会を発展させられないか。
- 区民センターでの体操教室の難度分けをしたら良いと思います(物足りない方もいる)。
- 頭を使う時間。
- 子どもたちと一緒に親や祖父母も参加して体力づくり(予防の取組)。
- 身体的に衰えないように。
- 献血(定期的)。
- 健康診断にもなる。

●●●●●●●●●● こんなことをしてほしい

- 特に冬の時期、出かけるリスクの排除の方法(傘、転びetc 防止)。
- 行動力の強化。
- 道路を整備してほしい。
- 年齢を重ねると安全が重要となる。危険の少ないまちづくり。
- ゴミが散らかって歩きにくい。

●●●●●●●●●● ITの活用

- AIを活用する。
- SNSでの情報発信。
- パソコンなどで行う。ゲームなど。施設。
- デジタルネットワークの活用。
- タブレットでYouTubeの動画を選んで自分にあったメニューを入れて運動実施の手助けをする。
- 携帯やパソコンが普及しているから。
- 若い人だけでなく利用していると思うので。
- もらう「情報」と提供する「情報」。
- 介護ロボットの開発。
- 人材不足なので。

●●●●●●●●●● 人とのつながり

- 男も「女子力」をつける。
- お隣さんへの声かけ。
- 井戸端会議の復活。
- 若い時から心がける。夫婦の日の話の益話が大事。
- コミュニケーションによる地域の活性化。
- コミュニティを作る。
- 認知症の予防として。
- ゴミ出しのサポート隊。
- 重たいゴミなどをコミステーションへ運び出す手助けの取組(高齢世帯向け)。

●●●●●●●●●● 高齢者への在宅訪問。

- 健康状態の確認(特に一人暮らしの場合は難しい)。
- 面倒がらずに地域行事への参加をする(今回のワークショップのようなもの)。
- ネットワークが広がり、孤立を防ぐことが出来そうだ。
- 通院している人をリストアップする。
- 通院が大変な人もいる。
- 「暮らしサポートボランティア」を作る。
- 一人暮らしの負担軽減。

※疑問点

- そもそもコミュニティはどのくらい残っているのだろうか。
- 互助とプライバシーとのバランスをどうするか。
- 互助と個人情報保護法との兼ね合いをどうするか。

第2回で検討する取組：
“私をはじめ”みんなが
つながるプロジェクト

東・白石区チーム

ライフスタイル

出席しやすい教室。
時間帯など多様なライフスタイルへ対応できていない。
目標を決める。
出掛けるのがメンブクサイ。一人のほうが気楽だから。

公園活用

公園デビュー。
公園のゴミ拾い。

コミュニケーション

元気がな?と声をかけてあげる。
挨拶のきっかけに道路の清掃。
近所のごミスターションや消火栓の除雪。お世話焼き。
外に連れ出す。
仕事(異業種)の方とコミュニケーションを取る(若いうち)。
毎年、新しいことを一つ始めている。
小グループで健康になることをしている(筋トレ)。
長生きのコツを学ぶ。

人とのコミュニケーションを大切に

ごみ出して挨拶。
声かけ(ウォーキング中)。
近所の人に会ったら、あいさつをして仲良くなる。
顔を合わせる機会をつくる。
コミュニケーションを取れるような時間帯に外に出で挨拶などする。
挨拶からのコミュニケーション。
お互い助け合う。
マンションの管理組合の活用。

マンションなので、管理人に相談してみる(皆が集まるよう)

老人会に入会を勧めめる。
老人クラブに入会する。
お祭りでBBQ(町内会)。
友達作り(旅行)。
緑の返し声かけをする(締めず)。
冬の雪かきなど、高齢者が住んでいたら手伝ってあげる。
除雪を隣の方もする。
協力した雪かき。

他人への興味が強い。

外に出たがらない。
町内の参加が少なない。
近所とのつながりが少ない。
友達が少ない。
マンション住まい。
高齢者の情報がもらえない。
高齢者の会への参加が少なない。
自分が参加して良いのか考えてしまつて参加できなない。
若い人は高齢者に対する知識がない。

福祉センターをもっとたくさん。近くにないと良い。

スポーツ

自分の限界(体調等)を知っておく。
ウォーキング、冬の場所を提供してほしい。
健康管理(ジム通い)。
運動する。
散歩をする。
老人のラジオ体操、冬の場所。
マッサージの仕方。
健康診断を受ける。

運動(卓球)。
スポーツをガンハル。
ジム→ヨガ→柔軟。
ノルディックウォーキング。
姿勢を正す。
ゲートボール。
自分の健康を理解できていない。
冬の歩く所がない。
健康に対する意識はあるが行動してないなので、行動する。

食事

食事管理。
食事は栄養が偏らないようにする。
煙草を控える。
20歳になつても飲酒・喫煙は控える。
野菜中心食。
食事のバランスを考える。
酒を控える。
食事管理をしなくては、と思うのは既に健康ではないから?

頭の体操

ストレッチ管理。好きな事をやる。
麻雀。
カラオケ大会。
足し算、引き算をする。
政治に関心を持つ。

※疑問点

市による公開は限界なの?

第2回で検討する取組：
多様なコミュニケーションを取れる施設を近づくにつくるプロジェクト

厚別・清田区チーム

自 助

身だしなみ

- 身だしなみに気を付ける。
- 他人と比べる。
- 若作りする。
- 鏡を見る。
- 風水を重んじた掃除をする。

つながり

- 趣味を持つ。
- 夫婦二人で、自転車でもいから旅行したい。
- 夫は82私は79、毎日元気です。大事な人（配偶者等）に何かしたいと思う。
- ペットと生活する。
- 色々な事に取り組みスキルアップしたい。
- 人と話す。
- 明るい話題の提供。
- 趣味を持つ。
- 家に居続けるだけでは他者とながらないから。
- 孤独にならないため。
- 引きこもりにならない。
- 健康のため、毎日楽しく二人で対話です。
- 楽しい余生を過ごしたい。

困っていることを伝える。

自分ひとりでは生きられない

健康的食事

- バランスの良い食事
- 素材の味を重視したメニュー
- 毎日のきちんとした食事
- 規則正しい食生活
- 病気の予防

体のメンテナンス

- こまめに健康診断に行く。
- 歯の健康。
- 定期的に歯医者。
- 入れ歯は大変。
- 「個人」介護保険に入る。

体力づくり

- 規則正しい生活。
- 適度な運動をする。
- 毎日ラジオ体操を行いたい。
- 二人で朝、ラジオ体操に行っています。
- 毎日、温泉に行っています。
- 毎日、散歩する。
- 毎日、ウォーキングする。
- ダイエットする。
- ゆっくりにお風呂に入る。

互 助

お手伝い

- 行きたい所に連れて行く。
- 切れた電球を取り換えてあげたり。
- 椅子に上るような高い所での作業を手伝ってあげたり。
- 依頼されたら駆け付けたり。
- 買い物の手助けをする。
- ついでの買い物に行く。
- 家周り、庭の掃除のお手伝い。
- 除雪作業のお手伝い。

地域への参加

- 回覧板を隣にお届け。
- 近所付き合ひ。
- 役割を持つ。
- 町内会の役員になり、部長として楽しんでやっています。
- 町内会イベントのお手伝い。
- お祭りのお手伝いで会計のお手伝い。
- 自治会活動に協力する。
- お祭りへのお誘い。祭りに行く。
- 町内会の活動に参加。
- 民生委員との連携。
- 区役所との連携・協力。

おすそわけ

- 食事の用意。
- おすそわけ（いただきますもの）。
- 野菜のおすそわけ。
- 助かるし、うれしいから。

声かけ

- 井戸端会議。
- 話し相手になる。
- 挨拶。一声かけ。
- いつも笑っている。
- 近所の人にあいさつ。
- あいさつをする・される。

見守り

- ある程度の時間、代わりに認知症の方の様子を見る。
- 定期的な安否確認。
- 徘徊者を探す手助け。
- 徘徊への見守り。
- 道で迷っている様子の方に声をかける。
- 介護者の負担軽減。
- ひとりで倒れていたら悲しい。

第2回で検討する取組：ゆる～いつながりづくりプロジェクト

豊平・南区チーム

自 助

体の健康

- 散歩。
- 毎日8,000歩、歩く。
- 生活習慣病を予防する。
- 体に良く、気軽に行ける。

心の健康

- お金と楽しく付き合う。
- 趣味(好きな事)を続ける。
- おいしいものを食べ掛さず、生きがいになることを探す。
- 好きなこととしてストレス発散する。
- 財産管理。
- 自分の一番大切な物の管理を通じて、脳の活性化を図る。

常に刺激を受ける

- スマートフォンを使いこなす。
- 五感を使う。
- 週1回はデパートに出かける。
- 健康マージャンに参加する。
- 情報収集、情報発信をできるようにするため。
- 知りたいことを知る、学ぶチャンスをつくる。
- 学びたい。前向きであるべき。
- 認知機能を保つ。
- 外に出ることと頭と心に刺激を与えて健康的に過ごす。
- 認知症を予防する。

介護の実態を知る セカンドライフを前向きに!

- 退職数年前に今後について考える。ワークショップ、つくる→出る。
- 高齢者の「これから」「生き方」についてのアプローチが必要。
- 高齢者を支える人々への心理学的アプローチが必要。
- 「生き方」についての基礎や基盤を必要としている。
- まず「支える」側が心理的に元気であることが重要である。
- 制度の講習会(楽しく)。
- 講習会と聞くと難しく聞こえるので、誰でも参加しやすくなった。
- 知っていることを広める。
- 礼儀で行われている活動を知らない人が多い。
- 様々な事業があっても活用されていない。

互 助

飲みニケーション

- 飲み会に参加する。
- 区域(地域)での飲み会を開催。
- 気軽に話せる友達をつくるため。
- 趣味につながる。人とのつながりができる。

つながりを大切にする

- ネットワークをつくる。
- あいさつ(近所の人)。
- 重要物、財産保管の書類等を持つ。
- 安否確認。
- 家の鍵を隣の人に預けることが出来る。信頼しあえる。

多世代の交流

- 子どもと高齢者のクラブ。
- 子育てと介護の架け橋。

地域の協力・アドバイス

- 町内会で高齢者ネットワークを構築する。
- 地域(かなり小さい範囲)で集まる機会を持つ。
- 個人単位では互助の互助は困難。
- 心配事など聞いてあげられるかも。
- 「貧困」へのアプローチ。
- 全国でも6人に1人が「貧困」の現在。経済的な支援が必要である。

助け合いの関係・地域の信頼関係

- 近隣の方と関わりを持つ。
- 高齢の孤独死が増えている。
- 年代に関わらず集まる場所をつくる(コミュニティスペース)。
- 近隣住民と子息等との信頼関係構築。
- 近隣と付き合いがないことで、社会とのつながりがなくなる。
- 人とのつながりのあいを持つことで生きがいを得る。
- 相互関心を持つことでの互助。

集まる機会と場、社会的役割をつくる

- 独居対策としてのシェアハウス
- コミュニティハウスの活用
- お年寄りが日常 気軽に集う場

見守りの関係を作る

- 自分の身元がわかるものを常備して出かける(ブレスレット、ネックレス、キーホルダーなど)。
- 地域での見守り合い。
- 地域で助け合うことにより、未然に危険を防ぐ。
- SOSを母などところで出すため。
- 安否確認。
- コミュニティハウス(買い物バス)。

助け合い(企業と地域の関わり)

- 企業(会社)チラシを作り、地域に配布(Wm-Wm)。
- 広報活動。
- 認知症になった時、助けを求められる場所がある(コンビニ、スーパー)。
- 出来ること、提供できることが地域で共有できる掲示板。
- 近くの人が「できる」ことをアピール。
- ネットワーキングがあれば、すぐ調べて身元がわかる。
- 自分がどこにいるのかわからなくなったら、すぐに駆け込める場所があると安心。

第2回で検討する取組：セカンドカルチャースクール

西・手稲区チーム

体力・健康 ●

体力づくり。
運動習慣のあるなしで、高齢者の体力に差がある。
ケガの予防、回復回線。
町内会で健康づくり。土・日の昼～夕、公園で体操など。
介護予防。生活習慣病予防。体力づくり（年齢別に段階を）。

安台確認 ●●●●

民間のシステム活用（セコム・ALSOK など）。
町内会で緊急連絡網を作成する。
隣近所から交流を始める。
任意加入。カーテンが締め切りはなし・新聞がたまっている等で訪問。
一人暮らしの高齢者への定期的な安否確認。
近所で様子を見る。電話で連絡。

困っている高齢者がどこにいるか把握する。
地域協力員の増員。
携帯電話の活用。
安否確認→ボランティア、近所付き合い、民間。
地域の交流がないと、取組がでさぬ。
祖母の認知症。自若での引きこもり。近所からの連絡。
高齢者の孤立や生活困難。
孤独死。
祖母（90歳）が一人暮らしのため、定期的に電話で安否確認をしている。

地域の交流 ●●●●

高齢者同士の交流の場。
小学生とお年寄りの方の交流。
昔あそび（児童会館で）。
認知症になりにくい生活習慣としての“人との交流” “知的行動習慣”（文章を書く、読む、ゲームをする）。
認知症初期に落ちる能力が軽減される。
町内会以外のコミュニケーション作り。
介護特化。
町内会でのイベントを開く。
盆踊りや町内会でのお祭り。介護施設等のお祭りの周知も。
地域のつながりが弱い。
町内会加入の減少。

世代を超えた教え合いの場。昔遊びや電子機器。お互いに教え合う。

ご近所づきあい ●●

ご近所づきあい。
近所に住んでいる人を知らぬ！
「困った！」時に助けてと言える人が近くにいる。
当事者、家族の「困っていること」をシェアリング。
遠方にいる身内より、近くの他人の方がたすかる場合がある。

高齢者の話し相手。
ずっと一人でいると話すこともないので、ボケ防止のため。

収入への不安

将来に備えてNSAなどの金融商品を。
介護サービスを受けるための蓄え。
将来に備え、保険などに自分で加入しておく。
収入・年金の減少。
将来の年金があまり見込めないと思われるため。

ボランティア ●●

近くの公園のボランティア。
歩いて行ける範囲のボランティア。
草取り、ゴミ拾い。
町内会で住民相互の有償ボランティア（買い物、除雪、電球交換、ゴミ出し等）。
スーパーまでの生活ラインに休憩用のベンチを設置。
買い物支援。
買い物難民にニュースで聞いて。

第2回で検討する取組：
えんがわプロジェクト

2. 第2回ワークショップ「アイデアの抽出」

(1) 開催概要

- ・日時：平成29年9月9日（土）13:30～17:15
- ・会場：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
- ・参加人数：41名

(2) 第1回の目標

「自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合い」の取組実現に向けて
課題出しと、その解決方策の検討を行うこと

(3) プログラム

1. 開会
2. ガイダンス、前回の振り返り
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「取組アイデアのブラッシュアップ」
 - ・グループワーク2「アイデア実現に向けた課題抽出と解決策の検討」
 - ・グループワーク3「プロジェクト命名」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表、全体討議
5. 市民参加に関する情報提供
6. 主催者挨拶
7. 閉会

(4) プログラムの内容

ガイダンス、前回の振り返り

検討テーマの再説明、前回の検討内容について振り返った後、前回出された追加の疑問に回答しました。

グループワーク1「取組アイデアのブラッシュアップ」

「宿題」として各自が考えてきたアイデアを出し合いながら、「取組」をよりブラッシュアップ（磨き上げ）しました。

グループワーク2「アイデア実現に向けた課題抽出と解決策の検討」

ブラッシュアップした「取組」を実現する際の「課題」を抽出しました。また、その解決策について検討しました。

グループワーク3「プロジェクト命名」

これまで検討してきた「取組」に、これまでの検討経過を踏まえて正式な「プロジェクト名」を再命名しました。

グループ発表、全体討議

各グループからの発表の後、他グループのワークシート（模造紙）に新たに意見・アイデア・感想を書いた付箋を貼り付けました。また、参加者数名から貼った意見・アイデア・感想について発表してもらいました。

(5) 当日の様子



① ガイダンス、前回の振り返り



② アイスブレイク「つながる近況報告」



③ グループワークの様様



④グループ発表の様様



⑤全体討議の様様


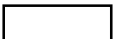


(6) 第1回で寄せられた質問・札幌市からの回答

第1回のグループワークを通じて4点の質問が出されました。

No.	(グループ名)ご質問の内容	札幌市からの回答
1	(北区)そもそもコミュニティはどのくらい残っているのだろうか?	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域コミュニティ」の主要な担い手であり、地域包括ケアシステムにおいても重要な役割が期待される「町内会・自治会」については、平成29年1月1日現在、2,201の単位町内会とその連合体である90の連合町内会が結成されています。 ・加入率は減少傾向にあり、現在は全市で71.12%、北区では73.26%となっています。
2	(北区)互助とプライバシーとのバランスをどうするか?	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会等の地域のコミュニティ団体であっても「個人情報」を扱っていれば、個人情報保護法の規制の対象になります。 ・町内会が「互助」の取組を行う際に重要になると考えられるのが対象者の「名簿」であり、「名簿」には、「個人情報」(個人が特定できる情報)が掲載されることとなります。
3	(北区)互助と個人情報保護法との兼ね合いをどうする?	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の取り扱いにおける基本的な考え方は「ご本人の同意がある範囲で、同意を得た主体のみが取り扱うことができる」ということです。 ・この他、個人情報を取得する際には、利用目的を明示する必要があります。 ・地域のコミュニティ団体が、互助の取組を行う場合には、こうした個人情報保護法の制限の範囲内で行う必要があります。
4	(東区・白石区)市による公助は限界なの?	<ul style="list-style-type: none"> ・検討テーマに関する事前説明資料、第1回では「自助」「互助」「共助」「公助」についてご説明しました。 ・介護に限らず、住民の福祉を向上させる取組には「公助だけ」「自助だけ」ではなく、いずれの要素もバランス良く必要です。 ・今後、札幌市はもとより我が国においても、さらに少子高齢化や人口減少、税収減が予想されることから、相対的に「自助」「互助」がより重要になってくると考えられます。

(7) ワークショップの成果～各グループが作成したワークシート

凡例

- ◎  「取組」をより良いものにするための工夫・付加するアイデア
- ◎  アイデア実現に向けて解決すべき課題
- ◎  課題の解決方策（課題解決のアイデア）
- ◎  他チームのメンバーからの追加意見

中央区チーム **ハートDE見守り気持ち反映循環プロジェクト** (1/2)

見やすい！わかりやすい！勉強
 になった。

面白い！勉強になった。

図がきれい。

中央区最高！

理想が現実になる努力を。

「軸と回す力」＝ポリシーが大切

循環には軸と回す力が必要。
 循環させるための軸を明快に。
 現在の生活の問題点について、
 共有する会を開催する。
 回していくための協力。
 コミュニケーションの連鎖。

現場での活動を統括する団体が
 必要。
 NPO 法人設立。区と連携。
 NPO 法人設立に要する費用、運
 営はどのように？

要望・情報の収集
 (※内容は次頁)

見守りの仕組み

高齢者をターゲットとした犯罪
 の撲滅も必要。

オレオレ詐欺対策。留守電機能
 において、かかってきた電
 話にすぐ出ない。

AIロボットを配布する。
 操作の簡単なインターネット端
 末につなぐ。
 緊急ボタンだけでなく、センサー
 で分かるようにする。

予算や必要な費用をどこから捻
 出するか。
 協賛会社を募る(協力すると良い
 ことが！)。

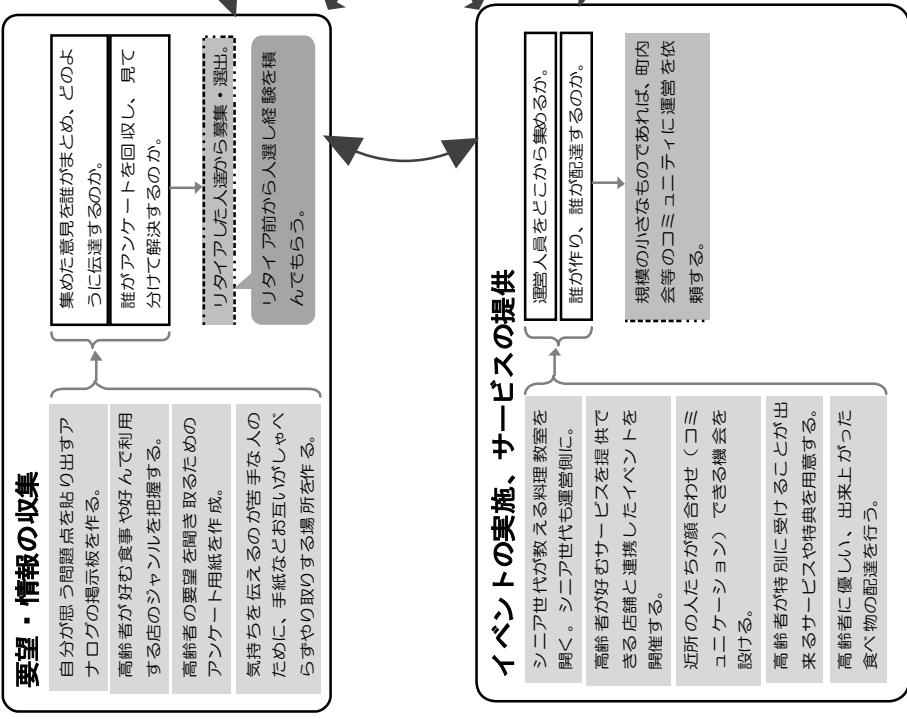
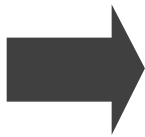
イベントとサービス
 (※内容は次頁)

人・担い手
 (※内容は次頁)

施設・場所
 (※内容は次頁)

中央区チーム ハートDE 見守り気持ち反映循環プロジェクト (2/2)

「軸と回す力」
 〓
 ポリシーが大切
 (※内容は前頁)



人・担い手

ゴミ出しの支援(分別も含む)。
 回していく人の発掘・認定。
 見守りについて。安否確認、個人情報、とりあえず民生委員にお願いする。
 子どもの声かけ運動(ボランティア)。通学前に自宅訪問「おはよう」「行ってきます」の挨拶をしていく(安否確認)。

→

誰か? 担い手が必要(居ない)。
 信用できる人がいない。
 ボランティアの活用。
 学校のカリキュラムに「介護」を入れる。

→

情報の公開。どこに問い合わせたら、何がわかるか。
 個人情報保護法。
 同意と厳格な管理。

→

中央区はこれから年寄りがマンションに引っ越してきて高齢化が進むので「だれか」が大変ですね。
 「誰か」「どうやって」難しいですがクリアしていきたい...同じ気持ちです。
 コーディネーターが必要ですね(共通したことと思います)。

施設・場所

「ふれあいセンター」を便利な場所に作る。
 場所の問題(どこに?)。
 もっとたくさんさん老人ホームを増やす。
 主体の問題(誰が?)。
 介護士が足りない。
 給料を上げる。
 給料を上げるのは難しいのかなと思う。

→

具体的な資金はどこから?
 高齢者や子どもと触れ合える場所を作る。
 高齢者・子どもが集まるのか?
 回覧板や老人ホームのポスター、保育園などで宣伝してもらおう。
 スーパー等にチラシを貼る。
 公園や既存施設を利用。
 デジタルよりもアナログな手段を利用する(チラシ、ポスター等)。
 老人福祉センター利用者に協力してもらおう。
 バスで迎えに行く。

北区チーム “こんにちは”で始める“無理なく”つながる (1/1)

つながりづくり

お隣さんへの声かけ。
井戸端会議の復活。
始めは「おはようございます」から。
商店に声かけの協力をお願いする。
卒業した学校の同窓会などで。
ファイターズの試合などでの交流。
カラオケ。
夫婦の日ごろの会話が大事。若い時から心がける。
「こんにちは」がなかなか言えないですよね。無理なく始めた方がいいです。
あいさつはともステキ。

具体的な取組

通院している人をリストアップ。
お年寄りをピックアップする。アンケートに答えてもらう。
町内会で子ども見守り隊のようになり「シルバー見守り隊」を作る。
暮らしサポートボランティア。
ゴミ出しサポート隊。
シルバー見守り隊が活動している事を宣伝する(お祭り、回覧版、自宅訪問等)。
助け合いの場合、IDカード・Tシャツ・リストバンド・帽子・タオルなどで本人確認できる(一目で分かる)ツールがあると良い。
フリーバーバーづくり。
町内会 Q&A。市に提案。
町内会やマラソンで「風通し」をよくする方法を考える。
高齢者宅への在宅訪問。
時間はかかるだろうけど、「まちづくりコーディネーター」の育成。
ボランティアはまず声をかけることが大切だが、一番むずかしい。
“まごの手”手袋の作成。
(不安解消のため)やれる事、やれない事を明確にする。
高齢者宅への在宅訪問。
フリーバーバーづくり。

ITの活用

高齢の方とITを結びつけるのはとても面白いと思います。
デジタルネットワークの活用。
自分が「出来ること」の登録 (IT 関連など)。
家庭にあるツール (TV・PC・スマホ等で情報の送受信) で明確に現実を把握した上で判断し、個々に対応する。
身内(兄弟・子ども・孫・親戚等)がまず状況を知らせるサインを出す。
介護ロボットの開発。
SNS での情報発信。
TV データ放送の活用。
TV のインターネット通信を活用して情報発信・把握をお手伝い。
「まごの手 TV」「まごの手スマホ」を普及させる。
気軽に聞ける人がいると使いやすくなりそう。

町内会の課題

町内会に加入していない世帯(約3割)がもれてしまう。
町内会に入っていない家がある。
町内会の弱体化。
声かけも難しい
疑われないようにするには？(コミュニケーションの取り方)。
信頼関係を作るツールはどんなものがあるか。
普段からの近所づきあい。どうやってつながりを作るのか。
声をかける→ハードルが高い(子供が避ける)。

誰が？

活動は誰がするのか？
お世話係は？
初めの一人は誰に？
町内にある公園に人が集まらない。公園に行きたくならない。
自分ではできても、人を動かすのは難しい。
人材不足。
みんなの気持ち「手伝いはしたくない！」
いけど、負担にはしたくない！

携帯やパソコンがない家がある。
高齢者のIT利用状況について知る。
北区は外国人が多い(日本語が得意でない方々への対応)。
ITリテラシー醸成も必要か？

サポーター制度みたいなものと、それを知ってもらう方法。
ゼッケンをつける。
知ってもらうため、回覧版を回す。
小中学校の PTA 会長・副会長(限定)にお願いする。
給食・区の会食が年 4~5 回あるの、趣旨を理解されやすい。

やってみたい・できる人はいると思いうので、人をまとめる仕組みや組織を作る(市・まちづくり会社)。
地域・地元が介護施設・デイケアサービス等と連携していく。
「ヘルパー養成講座」等を開催してもらう(施設の人材不足も緩和)。
公園に花を植えるボランティア。
公園を利用して高齢者向けの健康操を週2回くらい実施。
今までの経験を生かして社会に還元する(健康基金管理をする、草取り等)。
「自分が」という気持ちは、何に対しても必要だと思う。
児童会館の午前中を利用できな

孫や子どもと学ぶIT講習。
音声を動くシステムのものを使う。
学生(外国語学科)や留学生との交流。
IT教室の開催(タダ、地域で)。
「Google」だけ覚えるから始める。
青ヶ島では TV3 チャンネルが島情報番組だった。札幌でも？

東・白石区チーム NEWとなり組 おらが施設プロジェクト (1/1)

NEWってかっこいい！

タイトルが好きです。

情報発信

回覧版で回す。
イベント情報 大きな字で！
高齢になると、文字が小さいと見ない。
介護の情報や色々な情報が貼り出されていたり、自分に必要だなと思う情報がある施設。

情報は誰がどこから入ります？
イベント告知方法。
同じ志の人が集まり、その人たちで情報を入ります。
老人福祉センター利用者との連携。

道具の貸し出し

正しく歩く事を学ぶ。
ノルディックウォーキングのボールの貸し出しを考えてほしい。
色々な趣味の道具を揃えた施設。貸し出しがある。手ぶらでも気軽にできる。

道具を集める方法を考える。
貸し出し用の物を揃えるお金はどこから出る？
貸し出しできる物品を集めることが出来る？
道具のメンテナンス。

区役所で貸し出ししているものもあるようだ。
参加する人が少しずつ寄付する。
協力してもらえらる企業を募る。

プログラム

ハード面よりソフト面のアイデアが大切。
施設を作る前に気運を高める。
ワークショップなどを行って「自分ごと」にする。

来る来ないは自由。
「自由」だと、お金的に施設が運営できなくなる。

寿大学卒業生のサークル活動。
気楽に入れるサロンなど。
得意な手仕事など教え合える場所。
むかし遊びがある・教えてくれる施設を作る。
教えてもらいたい。
知っている人は？
高齢の人が集まって、急病になったら…？
何か問題が起きた時、責任を取らないといけない。
保険に加入。

イベントの開催（キッズシアター）。
主催する会社、ボランティアの不足。
ボランティアをする人がいない。
ボランティアが5人以上必要。
ネット等でボランティアの呼びかけ。
ご近所先生的な。
ご近所先生の報酬が〇〇コインとして受け取り→施設で使える。
しくじり先生的な人生経験の話もあってほしい。

健康寿命を延ばすために小学生の頃から姿勢の取組をしてほしい。
高齢者と小学生が一緒にウォーク教室。
子どもと一緒に遊べる施設。
どうやったら子どもと関わられるのか？
児童会館等で週1回くらいでも集まれるようにする。
ラジオ体操の会場を巡るスタンプラリー。

月1回程度でも昼食をとる場所の提供。
おにぎりのみそ汁だけでも、100円以内で。
誰がお金を出す？
スポンサーがつけば良い。
スポンサーをつけるには、お願いが動く。
スポンサーは地道な営業でしか得られない！

ハード面

既存施設の有効活用。
マンション等の共用スペース（テニスコート・公園等）。
今ある、使用できる公共施設。
小学校を無料で開放してほしい。特に冬は体育館など。
地区センターの体育館を月2回くらい無料で開放。
施設の外からも見える場所にゆるく集える所を。
入りやすい設置。みかん箱のイスでもOK！
小さな商店みたいなの。
空き地を利用。
全館、廊下は手すり付き。
全てバリアフリーで。

有料の施設しかない。
有料なのか無料なのかわからない。
場所がない。
施設までの交通手段。

65歳以上は無料に！
「ない」のではなく、「探す」「切り開く」前向きな気持ちで。

施設のまわり

家の近くにキレイな花とか植えておくことで、外に出ることが増えたりする。
散歩コースを作る。
散歩マップ配布。

独居になる前（若い時）から、隣近所とあいさつする。

厚別・清田区チーム 「ゆるるカフェごようききプロジェクト」 (1/2)

「ゆるる～いつながりづくり」に必要なこととは？

お手伝いをする・受けるとき作法・気持ち
 濃すぎない・浅すぎないご近所の存在になる。
 ただ問題なのは、勘違いされがち(だからほどほどなのだ)。
 忙しい時など、手助けができない時ははっきりと断る。
 何か決めずらフがあれば誤解を生まぬ。
 YES・NO ははっきり言う。
 自分の意見を持つことも大事。
 「必ず手伝ってもらえる」などの過度な期待はしない。
 近くで、無理なく、気軽に！

出かける・さそそ習慣づくり、どうする？
 区役所などに行き、イベントを確認する。
 家に閉じ込めない。閉じこもらない。
 お祭り・行事、参加しやすくお誘いする。
 声をかけて参加の誘い。
 「見守り隊」「手伝い隊」を作る、ますあいさつから。
 出かける前の一声。
 近所づきあい。
 個人と個人の交流を深める。

ボランティアの登録って？ 区役所で募っている？
 イベントやボランティアの情報はあってもわかりにくい
 「ちよっとおせっかい」をどうするか。
 おせっかいについては、ジエネレーションギャップも大きい。
 「気持ち」を共有できることが大事。

つながりづくりのための取組
 適ぼう会。
 町内会組織を活用しての勉強会実施。
 歩こう会の開催。
 料理教室の開催。
 定期的に、任意参加のイベントを開く。
 町内会で希望者を集め、支援ボランティア等の体験会を実施。
 料理教室の開催。
 パークゴルフ大会の実施。

顔をあわせること・集まることが大事。

町内会
 災害時どうする？組織が必要。
 町内会内での生活支援活動への協力。
 防災訓練に参加。
 災害時の対応が重要。
 町内会の固いイメージ。

インフラ整備
 外出しやすい環境づくり(地下鉄・バス)。

健康づくりのための仕組み
 体力づくり。
 歩こう会開催。
 「1日3,000歩」歩く。ポイント制にして加算。ポイントに応じてごほうび！

「お手伝い」の仕組みとして何が必要？
 (※練習内容は次頁)

「困っているお年寄りがいたら助けてあげたい」と思っている人が行動に移しやすいような仕組みがあると、地域の交流が活性化されていきたいと思います。

厚別・清田区チーム ゆるカフェごようきプロジェクト (2/2)

「お手伝い」の仕組みとして何が必要？

できる事回覧・コミュニティの設置

- できる事回覧の設置。
- コミュニティの設置。
- 回覧をどこに置く？
- 投函を禁じている家はどうするべきか？
- 回覧への返信機能をつける。
- アンケートをとる。
- 町内会回覧板で実施する。
- 町内会館を設置場所として利用する。

- 自分のできる事は何か？
- どのくらい手伝うかの度合いのすり合わせをどうするか。
- 一人ひとりの意志によるのみ？
- できることと、してほしいことをタムラリーにマッチングする方法
- 誰もできない時のフォローは？

- 問題発生時のフォローはどうする？（保険）
- 場所の確保。

コーディネーターが必要

- 誰がシステムを運営するか。
- 「まどめ役」って町内会長？
- 遠慮してしまう人をどうするか。
- 外に出ようとしない人に外に出てもらおうには？
- 一度外に出ると、お友達が多くなってきたら？
- どのように要望を収集する？

- 責任者は交代制にすべき。
- NPO 法人を設立し、第三者に開かせてもらいたい。
- 各プロジェクト共通だが「コーディネーター」をどの様にして見つめるか・育てるかが課題だと思ふ。

問題の深刻さ（どれくらい助けが必要か）を相手に伝える

- 「他の人がしてくれらるだろう」という意識の改善。
- 一人ひとりがどう行動するか。
- お手伝いしてほしい人や内容・度合の把握は？
- お手伝いされる側がそれを当たり前に思ってしまう。
- お手伝いされる側も期待しすぎではないか。
- 手伝う人が負担になるような不要な手伝い（おせっかい）をなくす。

- ゆるすぎると反対に積極派・消極派に二分されないか。
- ゆるいつなかりを実行するためにはかなりの人数が必要と思われる。

気軽に参加しやすい仕組みづくり

- 参加しなくなる三何か「物」。
- 年に1回でも、自治会の人全員が強制的に参加する、あるいはしたくなる何かを行う。
- ポイントでごみ袋がもらえる。
- ごみ袋以外に、定額のものから選択できると良いと思いました（例：切手）。
- 何かもたらさずやっぱうれしい。清田スイーツ。
- 何かもたらさず「行ってみたいような」という気持ちにならざるを得ない。
- ポストにイベントのチラシを入れる。
- 町内会会費を値上げせず、運営内容の見直しをする。
- 困りごとを打ち明けることは迷惑で無いことを理解してもらおう。
- 手伝いが当然になってしまわないように互いに配慮すること。

どういう場所で？



「ゆるカフェ」開店！

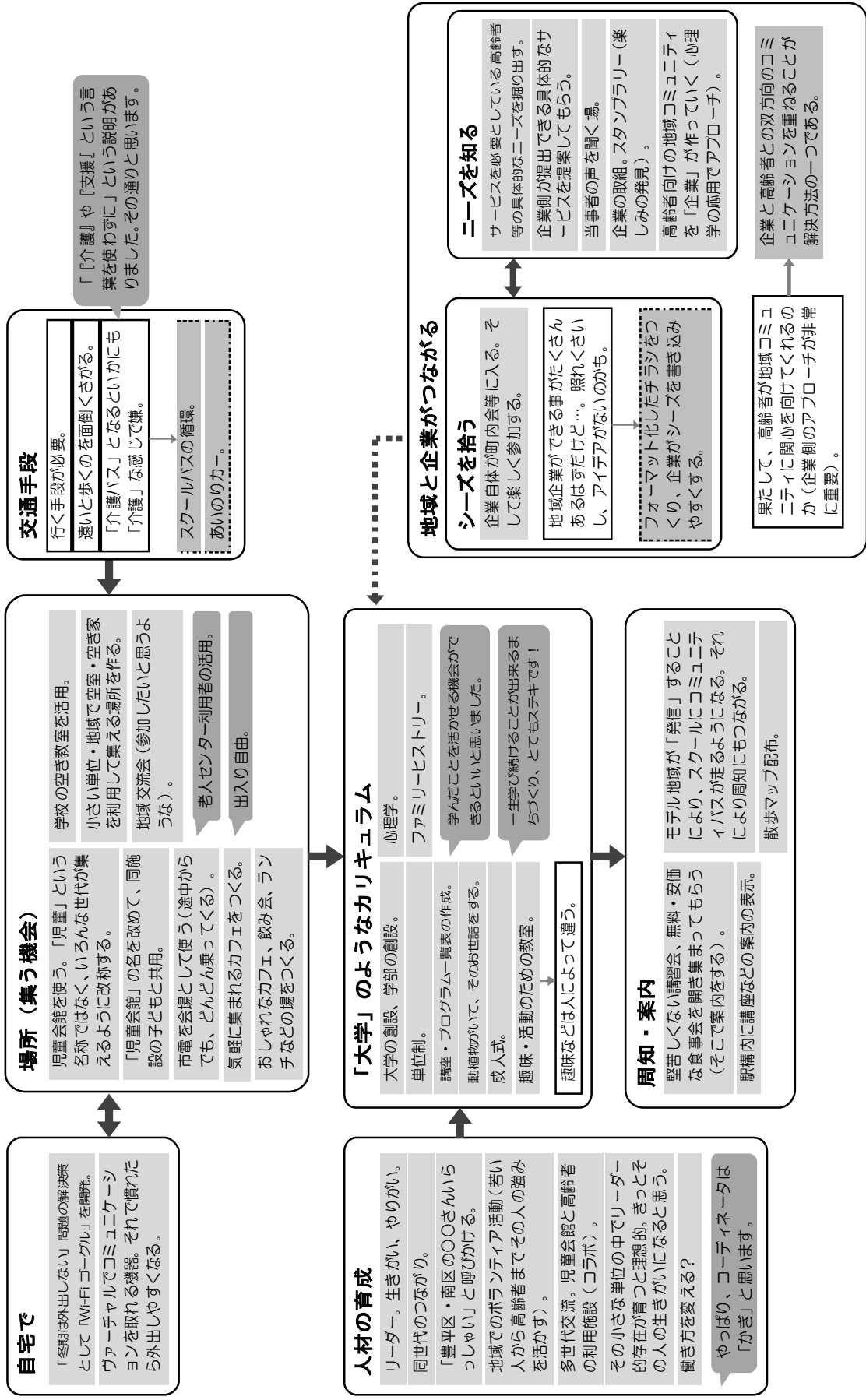
- 何かをしなから話せる井戸端会議。
- ゆる～いプログラム。
- ゆる～いカフェ。
- 町内運動会復活。
- 信賴関係を作る場所を用意する。
- 空き店舗の利用。
- 行きやすい地元スーパーを利用。
- 近所の空き家屋を利用。

- 発表が良かったです！
- 「ゆる～い」が好き♡
- 参加しやすそうだと思います。
- 気楽そうが良い。
- 誰かの役に立てることってうれしいですね！
- お手伝いの気持ちでできるのが気軽に良い。

助けてあげたいと思っている人が行動に移しやすいような仕組みがあると、地域の交流が活性化されたいと思います。

豊平・南区チーム Olds, be ambitious like this young man!! (1/1)

タイトルがっつい。
面白い！興味深く読みました。



西・手稲区チーム つながり・ぬくもり・みまもりを大切にす～えんがわプロジェクト (1/2)

全体的にわかりやすい とも見やすいです 字がきれい

何を？

常設イベント

遊び・趣味
 「遊ぶ」(昔あそびや現代、TVゲーム、Wii等)。
 ドローンを飛ばせる広い体育館、倉庫、広場や公園。
 ドローンとか面白そう。
 多世代コース。
 趣味の会のつどい(各自の趣味の披露)。
 ゲーム会のつどい(ピンゴ等)。
 趣味を楽しむ(パッチワーク、木工、ピース、作成、販売、展示、家庭菜園の交換販売等)。
 趣味への援助と協力を。

ゆったり

お茶会のつどい(近所の高齢者)。
 集会場等でお茶を飲みながら。
 駄菓子屋。
 足湯。
 高齢者が主体となるプログラム。

食

ランチ会のつどい(近所の単身高齢者)。
 自分で作る。料理を持ち寄る。
 「食べる」(一緒に料理やお菓子作り)。
 昔の郷土料理を教える教室。
 「育てる」(家庭菜園のように栽培)。
 地元の素材を活かす。
 料理を学んでみんなで食べる。

作るための道具が必要。

家から持ち寄る等の配慮、工夫。
 食品衛生。食中毒対策。
 「安心」をいかに保証するか？
 保健所のガイドラインを活用。

体力づくり

特殊なものを含むスポーツ施設。
 運動会。
 体を動かすワークショップの開催。
 多くの世代にとって、ふらっと立ち寄るメリットのある場所にする。
 子ども；遊んでくれる。
 中高生；自習できる。
 高齢者；昔あそび、体力づくり、交流など。

季節のイベント

行事・イベント(お月見、七夕等)。お団子作って食べるとか。
 お祭りや雪国の特性を活かした冬ならではの取組。
 囲炉裏や暖炉を設置(係員が居ることを前提として)。
 W杯のライブビューイング。
 催事を行う際の情報伝達。
 とうやうってイベントやお祭りの開催を知るか。
 駅に町内会サイトのQRコード。
 回覧板、チラシ。
 魅力的なイベントを作れるか。
 参加者交代ワークショップを行う。

ボランティア活動

身近な公園の清掃(住民交流、社会参加)。
 ボランティアによる学習補助。

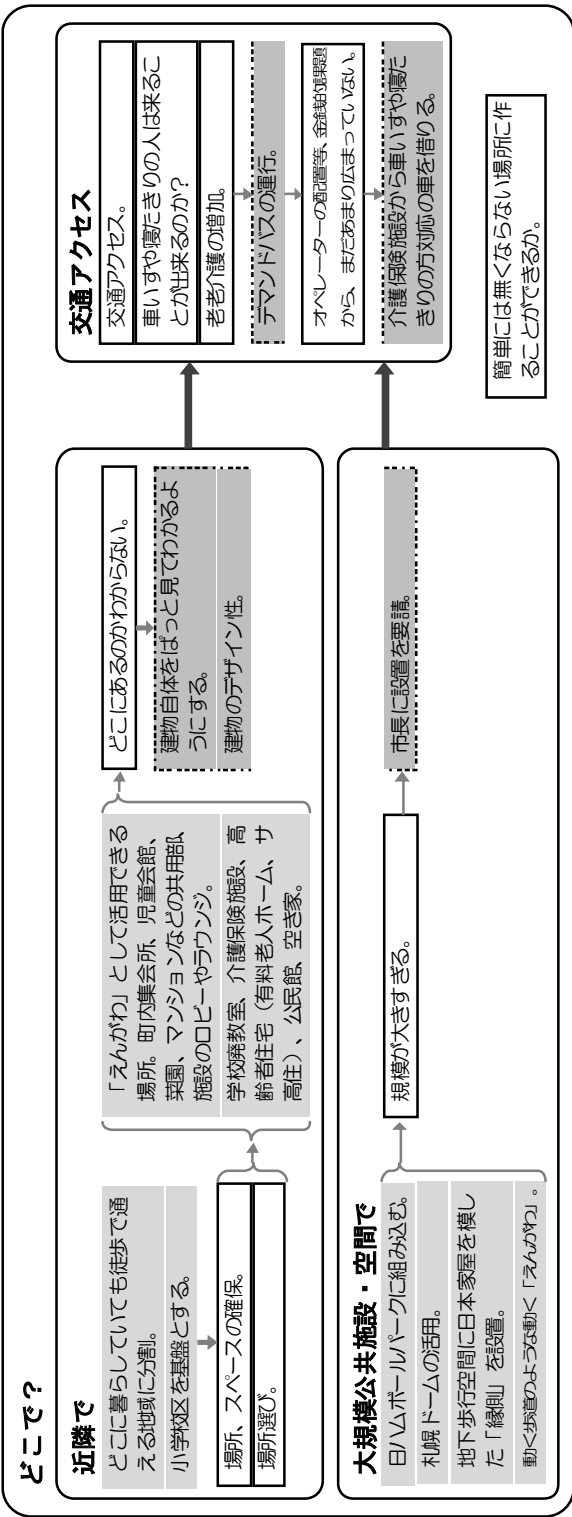
ゆるキャラ。募集する(地域住民から公募)。
 ゆるキャラという発想が新しいと思います。

そもそも必要か？

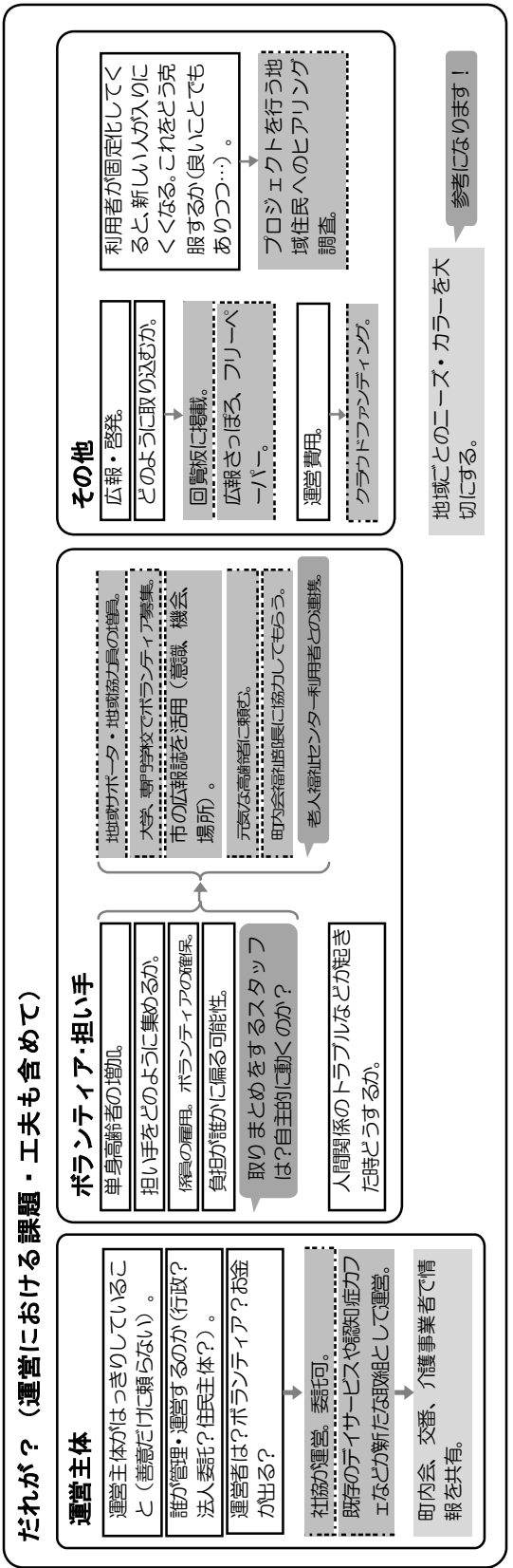
どこで？
 (※内容は次頁)

だれが？(運営における課題・工夫も含めて)
 (※内容は次頁)

西・手稲区チーム つながり・ぬくもり・みまもりを大切にす～えんがわプロジェクト (2/2)



何を? (※内容は別頁)

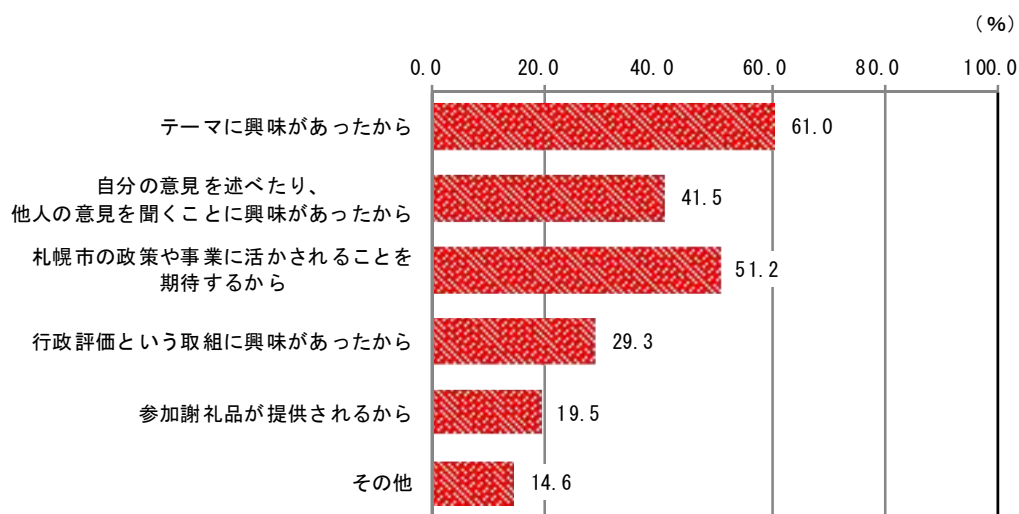


IV. 参加者アンケートの結果

第2回ワークショップ当日、プログラム終了後に参加者に対してアンケート調査を行い、第1回、2回ともご出席くださった41名の方からご回答をいただきました。

設問1) 市民参加ワークショップ参加の理由 (N=41、複数回答)

今回、市民参加ワークショップに参加することを決めた理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



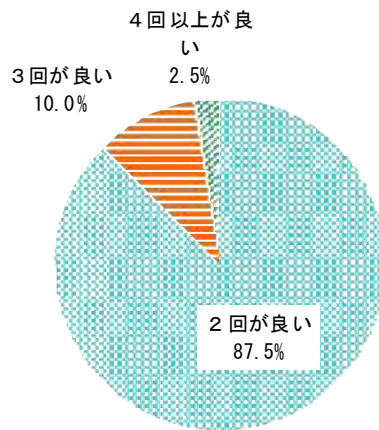
その他：

- ・自分の知らないことは何でも知りたいしやってみたいから
- ・ワークショップというものに参加してみたかった
- ・なにかに参加しなければならぬ気がしていた
- ・介護についての話し合いがありそうだったから
- ・せっかく選ばれたので

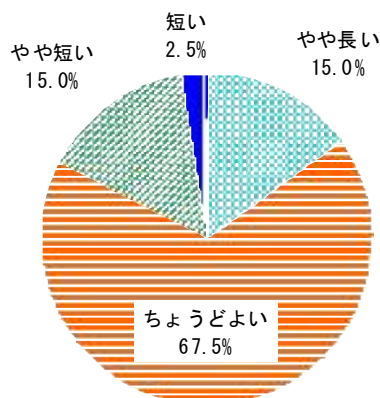
設問2) 市民参加ワークショップの設定について

今回の市民参加ワークショップの設定について、どのように感じられましたか？
5段階のうちあてはまるもの一つに○をつけてください。

・回数（2回実施）について（N=40、単数回答）

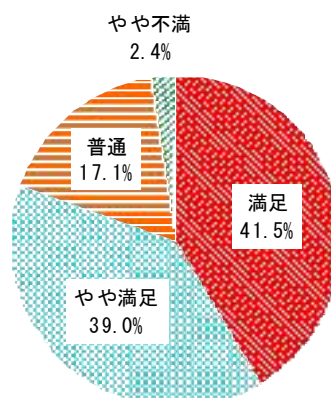


・議論の時間について（N=40、単数回答）



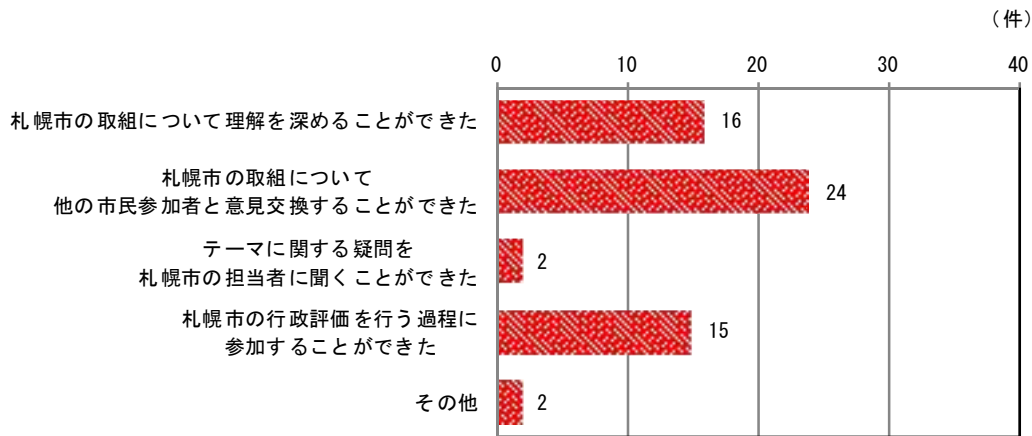
設問3) 市民参加ワークショップの満足度（N=41、複数回答）

今回の市民参加ワークショップに参加した満足度について、あてはまるものひとつに○をつけてください。



・「満足」の理由 (N=33、複数回答)

「満足」または「やや満足」と答えた方にお尋ねします)
 どのような点に満足されましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。



その他：

- ・参加者の本音がたくさん聞けて良かった

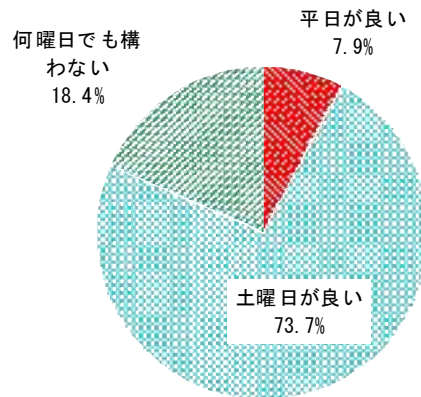
・「不満」の理由 (N=1、複数回答)

「やや不満」または「不満」と答えた方にお尋ねします)
 どのような点に不満を感じましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。



設問4) 市民参加ワークショップの開催曜日 (N=38、複数回答)

今回のワークショップは土曜日に開催しました。今後、このような取組にあなたが参加される場合、何曜日の開催が望ましいでしょうか。あてはまるもの一つに○をつけてください。



設問5) 自由意見 (N=23)

ワークショップの取組全体を通して、より多くの方にご参加いただけるワークショップにしていくための工夫・アイデアなど、ご意見、ご感想がございましたらお書きください。

ワークショップの設定・運営等について

- ・テーマが介護ということでカッコリとした雰囲気なのかと思っていましたが、和気あいあいとした空間で非常に楽しく意見交換をする事が出来ました。もしまた同じような機会があれば是非参加したいです。ありがとうございました。
- ・開催場所は今回は2回とも中央区民センターでしたが、いろいろな所で開催してみてもよいかなと思いました。
- ・もう少し大きな声で話ができるような環境が良いと思います。
- ・平日の夜が良い。ファシリテートが大変すばらしく、色々意見を出してみようと思えました。今回高齢者の方があまりいないように感じたので、年代ごちゃ混ぜバージョンや、実際の高齢者の方（介護施設など）だけのワークショップもあると、より具体的に今必要なことに市のお金を使えると思いました。いずれみんなが年とるので、年とっても希望をいただける場を自分でまた人の力もかりてつくっていくのが大切だと改めて感じました。
- ・午後からの日程は参加しやすかったです。こういった経緯でその年のテーマが決まったのか説明が詳しくあると良かったと思います。今後、今回の内容が市政に活かされて行くことを期待しています。たのしかったです！
- ・内容によっては回数は変更した方が良いと思う。途中で増えても仕方がない。募集している事を多くの人達がわかる様にする事が必要。今回は無作為で案内状が来ましたが、それには通信料がかかるので、別の手段も考えると良いと思う。
- ・ワークショップの掟があるのが良い。
- ・曜日はテーマによって、変えても良いと思います。
- ・マーカーの色を増やしてほしいです。とても楽しかったです！ありがとうございました！中央区最高！

行政評価・市民参加ワークショップの取組について

- ・今年に18歳になったので初めてこういう場があることを知って参加してみて、このような経験ができたことは、とてもよかったです！いろいろな刺激をうけることができたので良かったです！！
- ・疲れましたが楽しかった。自分の稚拙さを痛感。もっと書物を読まねばと思い知りました。この様な機会を与えて下さり、ありがとうございます。今回のことで20代の男女と話すことができた。20代と触れることのない日常。しっかりした大人でしたね。老婆心です。うれしかったですね。
- ・初めてこのようなワークショップに参加させていただいて色々なアイデアを発言や聞くことができとても良かった。また、このような事があったら参加したい。
- ・案外勉強になりました。テーマがはっきりしているので、興味のあるものであったらうれしい。もっと発言できたらと思う。
- ・普段、福祉について学ぶ中では得られない視点、考えについて学びました。
- ・ワークショップでの結果がどのように反映されたか、反映されなかったのかを知らせてほしい。どこをみれば関連する情報が得られるかだけでもよいので。
- ・過去のワークショップがどの程度反映されたのか知りたかった。
- ・楽しくできました。ありがとうございました。
- ・とても楽しく参加することができました。機会があれば、また是非参加したいです。

検討テーマ「地域で支える介護～私たちにできること～」について

- ・近年、市民間の「つながり」が希薄化する中で、各グループが自助や互助について考えていた。前述した通り「つながり」が希薄化しているにも関わらず、各グループ共通のキーワードとして「つながり」があり、市民自身、希薄化について危機感があったり、何とかしたいという思いがあるのではないかと感じられた。
- ・市役所と各自治会との連携が大切。
- ・他の活動とのコラボをしてお互いに評価してもらう事も良いと思います。
- ・参加者のほとんどがなにか手伝いをしたい気があるのが判った。重たい負担にはしたくないことが私と同じに多いことが判った。
- ・また改めて介護・福祉に付いての話し合いを期待します。苦情、不満とか、現実のケースを沢山知りたいし、理想を語ってる時じゃないし、知らない人が多すぎます。

V. 使用した資料

1. 事前送付資料

(1) 検討テーマ説明資料

検討テーマ「地域で支える介護～私たちにできること～」ご説明資料

行政評価 市民参加ワークショップにおける検討テーマ選定理由

平成 29 年 7 月 1 日現在、札幌市の高齢化率は 25.8%となり、平成 37 年には 30.5%になると予測されています。

このような超高齢社会において、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、札幌市を含む全国の自治体では、住まい・医療・介護・予防・生活支援を包括的に確保する体制である「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいます。

「地域包括ケアシステム」構築のためには、介護・医療などの専門職によるサービスと地域住民同士での支え合い＝互助が両輪となります。

札幌市行政評価委員会では、市民の皆様へ「地域住民同士での支え合い＝互助」の取組としてどのようなことが考えられるか、そして、それを踏まえて札幌市がどのようなバックアップを行うべきかお聞きしたいと考えております。

このような観点で踏まえ、市民ワークショップで検討いただくテーマとして「**地域で支える介護～私たちにできること～**」を設定いたしました。

行政評価委員会・市民参加ワークショップの役割・位置づけ

行政評価委員会について

市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の附属機関で、市役所外部の専門家から構成されています。

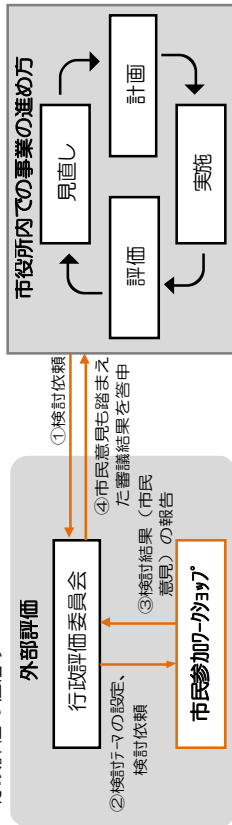
札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について、行政では気づかない点について審議・評価するのがその役割です。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマについて、一般市民の方々からご意見を聞き取るために実施するものです。

市民ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用されます。

■ 行政評価の仕組み



市民参加ワークショップについて

ご検討いただくこと

検討テーマ「地域で支える介護～私たちにできること～」を踏まえ、

- ・自分のできる日頃からの備え(自助の取組)
- ・となり近所の支え合い(互助の取組)

について、ご意見をいただきたいと思います。具体的には次の流れでご検討いただきます。

第 1 回ワークショップ (8 月 26 日 (土)):

地域においてどのような取組が考えられるか (アイデアの抽出)

第 2 回ワークショップ (9 月 9 日 (土)):

アイデア実現に向けてどのような課題があるか、それらの解決方策

第 1 回ワークショップまでにお願いたいこと

1. **本説明資料・同梱資料をよくお読みください:**
ワークショップでは、説明や質疑応答の時間はなるべく短くして、皆様からアイデア・ご意見をいただく時間を長くとりたいと考えています。そのため**お送りした資料をよくお読みください。**
2. **事前質問票をお送りください:**
お送りした資料等をお読みにになり、検討テーマや札幌市の取組、行政評価、ワークショップについて何か**ご質問・疑問点があれば、同封の事前質問票にて 8 月 18 日 (金) までに**お寄せください。第 1 回ワークショップにて回答申し上げます。
なお、第 1 回ワークショップでもご質問の機会が設けられますが、話し合いの時間を長く取るため、**ご質問はなるべく事前質問票にてお寄せください**ますようお願いいたします。
3. **第 1 回ワークショップで出す意見を考えておいてください:**
「地域で支える介護～私たちにできること～」として、「自分でできる日頃からの備え(自助の取組)、となり近所の支え合い(互助の取組)のアイデア」を**考えておいてください。**事前質問票でお送りいただく必要はございません。

ワークショップの進め方

- ・ご参加の皆様には 7～8 名程度のグループに分かれていただき、専門のテーブルファシリテーター(司会者)の司会・進行により、話し合いを行っていただきます。
- ・模造紙やふせん、シールなどを使った作業を通じて、気軽な雰囲気の中、話し合いを進めていきたいと思います。

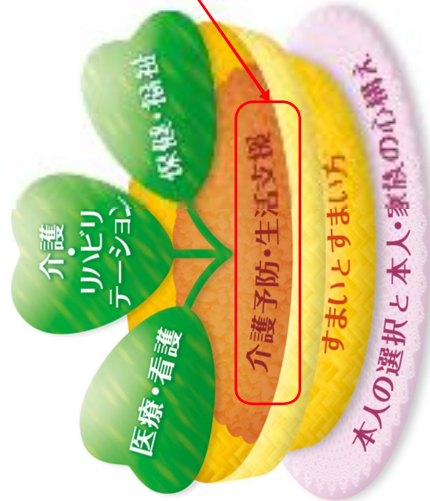
地域包括ケアシステム実現のための要素と、互助の大切さ

植木鉢の図

- 下の植木鉢の図は、地域包括ケアシステムの5つの構成要素(住まい・医療・介護・予防・生活支援)が互いに連携しながら有機的な関係を担っていることを図示したものです。
- 「本人の選択と本人・家族の心構え」がすべての基盤となる「植木鉢の受皿」です。
- 生活の基盤となる「すまいとすまい方」を「植木鉢」、「介護予防・生活支援」を「土」と捉え、専門的なサービスである「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・福祉」を植物と捉えています。
- 受皿・植木鉢・土の(ない)ところに植物を植えても育たないのと同様に、地域包括ケアシステムでは「高齢者本人の選択と本人・家族の心構え」があり、その上で高齢者のプライバシーと尊厳が守られた「住まい」が提供され、その住まいにおいて健康的な日常生活を送るための「介護予防・生活支援」があることが基本的な要素となります。
- これらがあって初めて、専門職による「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・福祉」という植物がいきいきと効果を発揮できるのです。

自助・互助・共助・公助

- 言い換えると、地域包括ケアシステムは、自分でできることは自分でする「自助」をベースに、地域がお互いさまで支え合う「互助」を充実し、そのうえで必要な部分には「共助」や「公助」を行うことで、高齢者の在宅生活を支えていくことを目指しています。
- 高齢化・人口減少がさらに進む中で、共助や公助でできることにはどうしても限界があります。自助や互助を充実していくことで、いくつになっても安心して暮らし続けられる「地域づくり」に取り組んでいくことが必要なのです。



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「＜地域包括ケア研究＞地域包括ケアシステムの構築に向けた制度及びサービスの検討」(地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスの検討に関する研究報告書、平成27年5月) 国土交通省高齢社会政策課 政策課 2016年

自助 ・自分のことを自分でする
 ・自らの健康管理(セルフケア)
 ・介護保険・医療保険の自己負担部分
 ・市場サービスの自費購入

互助 ・地域住民同士の助け合い
 ・ボランティア

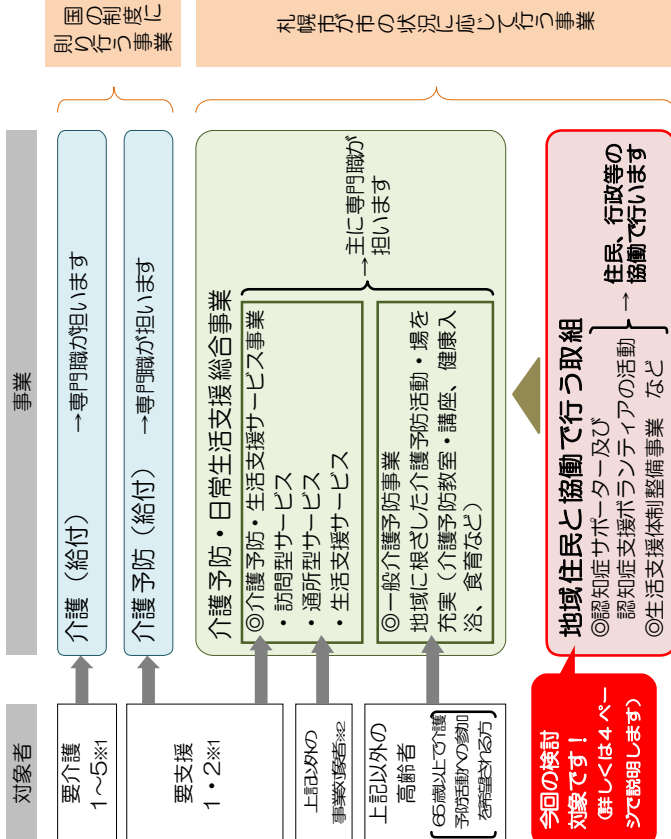
今回の検討対象です！
 (詳しくは4ページで説明します)

共助 ・介護保険・医療保険制度による給付(保険部分)

公助 ・介護保険・医療保険の公費(税金)部分
 ・自治体等が提供するサービス

札幌市の介護、介護予防・生活支援に関する事業の全体像

- 地域包括ケアシステム構築のため、札幌市が行っている介護関連事業の全体像は下図のようになっています。(2ページの「地域包括ケアシステムの姿」図では「介護」「生活支援・介護予防」左の「植木鉢の図」では「介護・リハビリテーション」「介護予防・生活支援」の部分が該当します)



今回の検討対象です！
 (詳しくは4ページで説明します)

- ※1 要介護度について**
- 要介護度とは、介護サービスを受けるにあたって、対象者の心身の状態がどの程度なのかを示す基準で、大きく「要支援」「要介護」の2つの状態に分けられます。
 - 要介護：日常生活の基本的動作を自分で行うことが困難であり、何らかの介護を要する状態です。要介護1から要介護5までの5段階があり、要介護5が最も心身の機能が低下した状態です。
 - 要支援：日常生活の基本的動作をほぼ自分で行うことが可能ですが、要介護状態にならないための予防として何らかの支援を要する状態です。軽い方から要支援1、要支援2の2段階があります。
- ※2 事業対象者**
- 要支援ではないものの生活機能の低下がみられる方には判定を行い、適当と判断されれば「介護予防・生活支援サービス事業」を受けていただけます。

札幌市による介護・介護予防・生活支援のための施策の概要

介護・介護予防（給付）

- ・国が定めた介護保険制度に則り、札幌市が運営しています。
- ・要介護 1～5、要支援 1・2 と認定された方が利用できます
- ・介護・介護予防サービスは、資格を持った介護の専門職が担います。
- ・詳しくは同封のパンフレット「なるほど実なる介護保険」をご覧ください。

介護予防・日常生活支援総合事業

- ・札幌市が市の状況にに応じて独自の基準を設定し行う事業です。
- ・要支援 1・2 認定を受けた高齢者と、要介護・要支援以外の高齢者を対象としています。
- ・主に資格を持った介護の専門職が担います。
- ・元気な状態を維持したり、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるように支えるための事業です。

介護予防・生活支援サービス事業

- ・要支援に認定された方や、生活機能の低下がみられ本事業に該当する方（事業対象者）が利用できます。
- ・要介護状態にならないために一定期間生活援助を行うことによって、できるかぎり住み慣れた地域で自立して生活できるよう支援する事業です。
- ・「訪問型サービス」「通所型サービス」「生活支援サービス」の3種類のサービスを行っています。
- ・詳しくは同封のパンフレット 22 ページをご覧ください。

一般介護予防事業

- ・65 歳以上で介護予防活動への参加を希望する方を対象にした取組です。
- ・介護予防や食に関する教室・講座を行ったり、地域のみなさんが主体となって行う介護予防の活動を支援しています。
- ・参加者同士の交流や社会参加を通じて、介護予防、生活の質の向上につなげていくことをねらいとしています。

「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の検討について

- ・現在、行政評価と並行して、ここに挙げた介護関連施策のあり方について定める「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成 30～32 年度版）」の検討を、有識者と公募市民を交えた「札幌市介護保険事業計画推進委員会」にて行っています。
- ・この計画に関するパブリックコメント（市民意見募集）を平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月にかけて行う予定です。
- ・計画書（素案）にはそれぞれの事業についてより詳しい説明も掲載されますので、個々の事業についてのご意見は、後日、パブリックコメントにてお寄せいただきたいと思います。
- ・札幌市介護保険事業計画推進委員会での検討の内容は下記からご覧いただけます：
<http://www.city.sapporo.jp/katgo/k500plan/k-570inkait.html>

地域住民と協働で行う取組（主なもの）

認知症サポーター及び認知症支援ボランティアの活動

- ・札幌市では、認知症について正しい知識を持ち、認知症の方やそのご家族を地域や職場で見守り支える人として「認知症サポーター」を養成しています。
- ・また「認知症サポーター養成講座」受講者等と呼びかけ、希望者を「認知症支援ボランティア」として登録し、認知症の人と家族を支援する活動を行っています。
- ・具体的には「認知症カフェ」※の運営支援や認知症に関するイベントの開催支援などを行っており、平成 28 年度は延べ 144 回の活動を行いました。

※認知症カフェ

- ・認知症の方と家族、地域住民、専門職がお茶を飲んでゆっくり過ごしたり、認知症に関する相談をすることが可能な場として、地域の高齢者福祉施設やカフェなどで、定期・不定期に開催されています。
- ・平成 29 年 7 月 3 日現在、札幌市内 47 箇所で開催されています。

生活支援体制整備事業（生活支援コーネーターの活動）

- ・各区に「生活支援コーネーター」を置き、町内会やボランティア、NPO、民間企業など地域の方や・機関と連携を図り、高齢者に対する地域の支えあいの体制づくりを行っています。
- ・平成 28 年度には 3 区で先行してモデル事業を行いました（事例としてご紹介します）：
 - A 町内会では、地域通貨を用いて、ちょっとした困りごとや手助けが必要な時に、同じ町内会の方によるお手伝いを受けられる仕組みを立ち上げました。認知症などによる徘徊への対応や電気機器の操作支援、入院への付き添い等の支援を行っています。
 - B 地区では、高齢者が多い地域でニーズ調査を行い、スーパールの宅配サービス等を一覧にまとめたほか、生活支援ボランティアグループを立ち上げ、買物や通院の付き添い、掃除等の支援を行っています。
 - C 地区では、高齢者のニーズを把握するためのアンケート調査や聞き取り調査、担い手を育成するための講座などを実施しました。今後、高齢者の要望として多かった買い物支援のための仕組みづくりについて、地区内の関係者と検討を進めていく予定です。

今回の市民参加ワークショップの目的は、こういった「地域住民と協働で行う取組」＝「地域住民主体の取組」として、どのようなことが考えられるか、そのために札幌市はどのようなことを行うべきか、どのようなことに留意すべきか、市民目線からのアイデア・ご意見をお聞きすることです。

（その具体的な内容は 1 ページ「ご検討いただくこと」をご覧ください）

(2) 事前質問票

平成 29 年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

事前質問票

◎検討テーマや札幌市の取組、行政評価、ワークショップについてご質問・疑問点があればこの質問票または電子メールにてお寄せください。

◎質問票では紙面が足りなければ、別の紙に書いていただいても結構です。

◎**8月18日(金)必着**にてお送りください。

◎下記までFAX、電子メール、郵送、ご持参、いずれかの手段でお送りください。

- ・電子メールの場合は、件名に「事前質問票」、本文には氏名を明記の上お送りください。
- ・郵送の場合は、同封の返信用封筒をご利用ください。

■FAX : 011-218-5194

■電子メール : kaikaku2@city.sapporo.jp

■住所 : 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
札幌市 総務局 改革推進室推進課 市民参加ワークショップ担当 宛

■ご質問者氏名 : _____

■ご質問は以下にお書きください :

2. 第1回ワークショップ資料

(1) プログラム

平成29年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ ～第1回 アイデアの抽出～

日時：平成29年8月26日（土）13:30～17:15
場所：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
主催：札幌市 / 司会・運営：株式会社ノーザンクロス



市民参加ワークショップの目的

検討テーマ「地域で支える介護～私たちにできること～」を踏まえ、

- ・自分でできる日頃からの備え（自助の取組）
- ・となり近所の支え合い（互助の取組）

について、ご意見をいただくこと

第1回めの目標

自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合いとして

地域においてどのような取組が考えられるか
ご意見をいただき、整理すること（**アイデアの抽出**）

プログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「アイデアと課題の抽出」
 - ・グループワーク3「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

ワークショップについて

1. ワークショップ（グループワーク）とは：

いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見い出す「体験型／参加型の会議・講座」です。

(意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません)

2. ワークショップの掟：

其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちょっと違うかも」と思っても、恥ずかしがらずに言うこと。

其の二 人の話は途中でさえぎらずよく聞くこと。

其の三 人の言ったことを批判したり茶化したりしないこと。

其の四 他の人が発言できるよう、発言は短めにすること。

其の五 気軽に明るく楽しく取り組むこと。

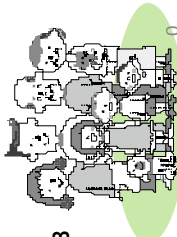
memo

(2) ガイダンス説明資料

平成29年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

検討テーマ：地域で支える介護
～私たちにできること～

第1回 アイデアの抽出



日時：平成29年8月26日（土）13:30～17:15
場所：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
主催：札幌市
会社・運営：株式会社ノーザンクロス

1. 開会・主催者挨拶

1

2. ガイダンス、 事前質問票へのご回答

2

行政評価、 市民参加ワークショップの 役割・位置づけ等について

3

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ①

行政評価委員会について

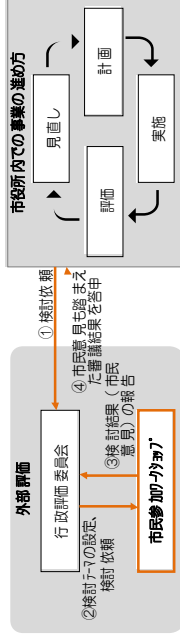
市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の外部機関で、市役所外部の専門家から構成されています。
札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について、行政では気づかない点について審議・評価するのがその役割です。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、**市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマ**について、一般市民の方たちから**意見を伺う**するために実施するものです。
市民ワークショップで出された意見は、行政評価委員会での審議に活用されません。

4

行政評価委員会の役割・位置づけ②



5

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ③ ～スケジュール～

平成29年	6月13日	第1回委員会
"	6月30日	第2回委員会
"	8月26日	市民参加ワークショップ 第1回め
"	9月9日	市民参加ワークショップ 第2回め
"	10月	第3回委員会 (予定)
"	11月	第4回委員会 (予定)
"	12月	第5回委員会 (予定)
平成30年	1月下旬	市長への報告書手交
"	2月	評価結果の公表

6

市民参加ワークショップの目的

検討テーマ

「地域で支える介護～私たちにできること～」
を踏まえ、

- ・自分でできる日頃からの備え (自助の取組)
- ・となり近所の支え合い (互助の取組)

について、ご意見をいただくこと。

7

市民参加ワークショップの目標

自分のできる日頃からの備え、となりの近所の支え合いとして、

第1回ワークショップ（8月26日）：

地域においてどのような取組が考えられるか
ご意見をいただき、整理すること（アイデアの抽出）

第2回ワークショップ（9月9日）：

**アイデア実現に向けてどのような課題があるか、
それらの解決方策**について検討すること

内容を絞り込み検討していきます！

8

本日のプログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2「アイデアと課題の抽出」
 - ・グループワーク3「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

9

検討テーマについて、
事前質問票へのご回答

疑問点があれば黄色のふせんにサインペンで
書き出して！（※1枚のふせんには1つだけ）

10

ワークショップの進め方について

11

ワークショップとは？

- いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見い出す「体験型／参加型の会議・講座」
- 意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません

12

親和図法（KJ法）について

- 文化人類学者・川喜多二郎氏(2009年没)が考案したデータ整理・問題解決手法。
- 「混沌として語らしめる」…混沌としたデータから何らかの形(秩序、法則、因果関係…)を見出す。
- 「専制的」ではなく、「民主的」手法…「アテハメ思考」からの脱却。独断的な分類のワケ組みを適用しない。
- トップダウンではなく、ボトムアップの手法。

13

親和図法（KJ法）の進め方

- ①課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
- 1枚の付箋には1つだけ！
- なるべく簡潔に！具体的に

○ 良い例

一人暮らしや
夫婦暮らしの
高齢者をリス
トアップする

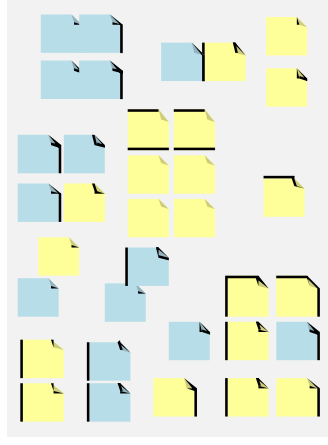
× 悪い例

・ 独居老人の認知症が進んだり、人知れずお亡くなりになるというような悲しい報道をよく聞きますが、自宅の近くでも発生しました。
・ そういったことがないように、独居と夫婦二人暮らしの高齢者をまず調べる
・ ことが大切です。
・ しかし、プライバシーの

14

②模造紙（ワークシート）に付箋を貼り付け

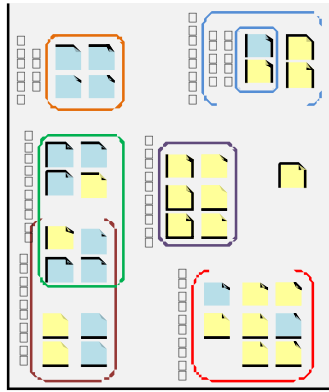
- 一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関係のありそうなもの同士が近くになるよう貼付け！
- 一見つまらなく見えるものも捨てずに貼り付ける！



15

③島づくりとタイトル付け

- 整理しつつ、似たものを線で囲み「島」をつくる
- それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に！
- 島にならないもの(離れザル)も捨てない！

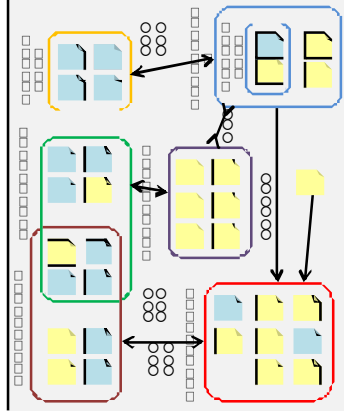


16

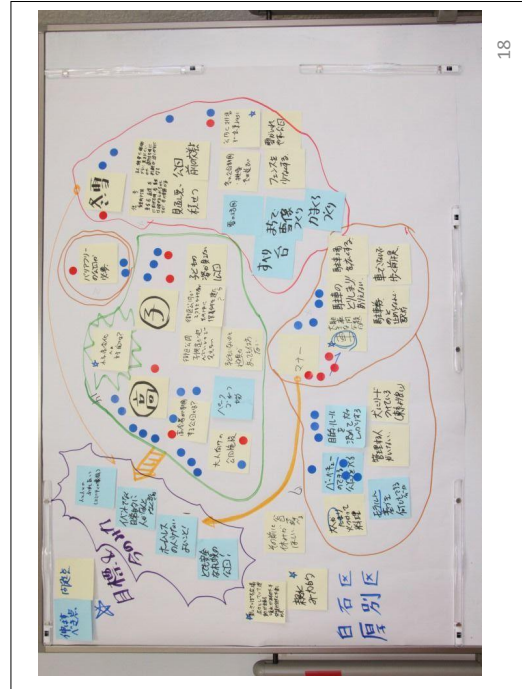
④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

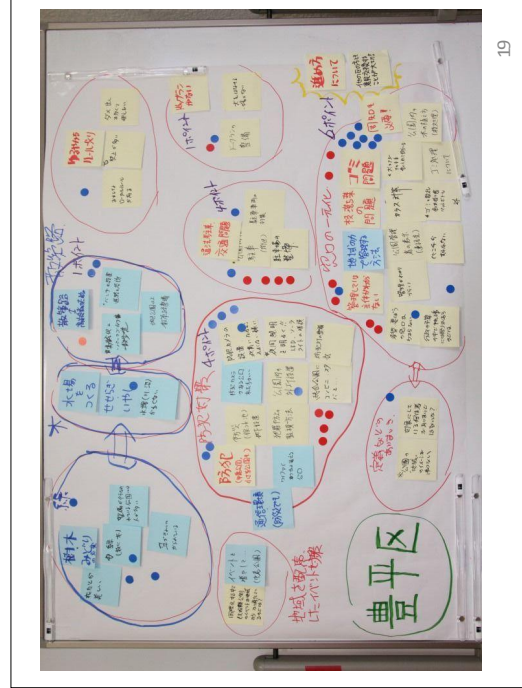
- 関係線の種類
- 原因→結果
 - 相互関係
 - 対立関係
- ※必要に応じて、他の線を使っても可



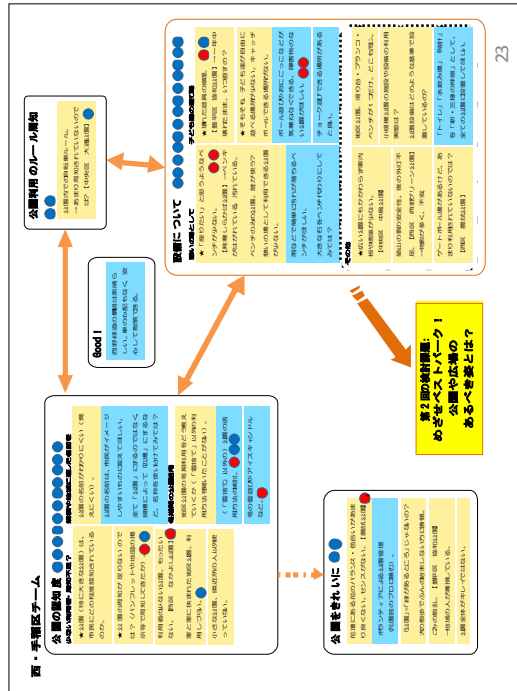
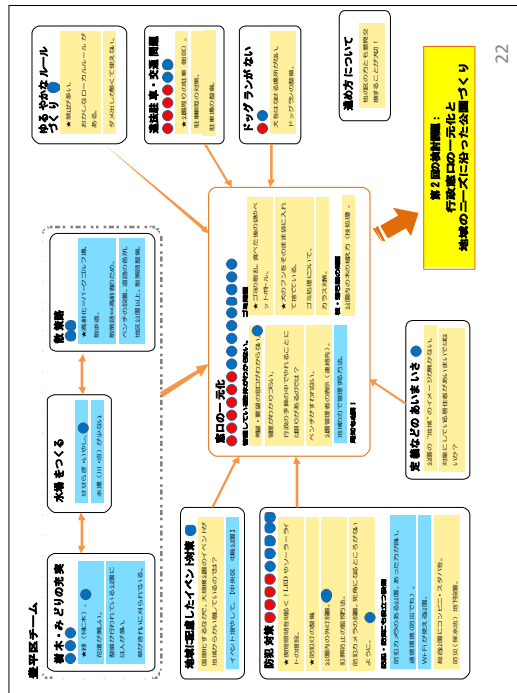
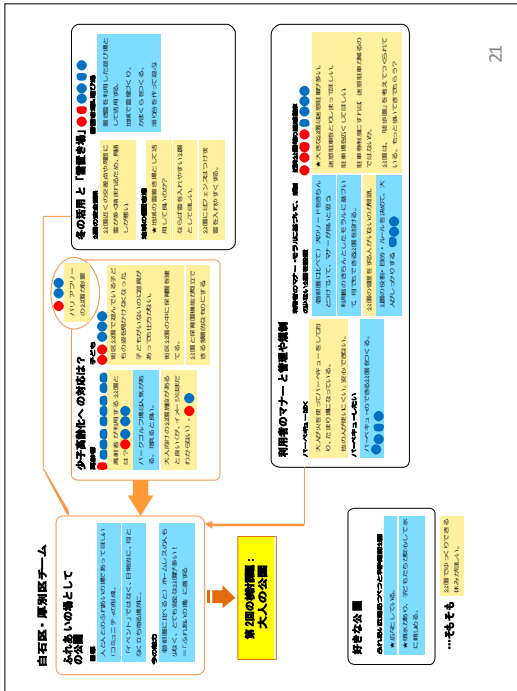
17



18



19



とても大切！

ワークショップの掟

- 其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちよっと違うかも」と思っても、**恥ずかしがらずに言ってみる**こと
- 其の二 人の話は途中でさえぎらず**よく聞く**こと
- 其の三 人の言ったことを**批判したり茶化したりしない**こと
- 其の四 他の人が発言できるよう、**発言は短めに**すること
- 其の五 **気軽に明るく楽しく取り組む**こと。

24

3. グループワーク

25

1. 氏名(姓、下の名前とも)
2. 出身地
3. 自分が**高齢者になったら、(すでに高齢者の方は)10年後、どんな暮らしをしていきたいか**

27

アイスブレイク「他己紹介」

26

1. 氏名(姓、下の名前とも)
2. 出身地
3. その人が高齢者になったら、
(すでに高齢者の方は)10年後、
どんな暮らしをしてみたいか
4. その人が高齢者になったとき、
(または)10年後に
取り組んでいる意外な趣味

28

市民参加ワークショップの目的

検討テーマ

「地域で支える介護～私たちにできること～」

を踏まえ、

- 自分でできる日頃からの備え (自助の取組)
- とり近所の支え合い (互助の取組)

について、ご意見をいただくこと。

29

市民参加ワークショップの目標

自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合いとして、

第1回ワークショップ (8月26日) :

地域においてどのような取組が考えられるか
ご意見をいただき、整理すること (アイデアの抽出)

第2回ワークショップ (9月9日) :

**アイデア実現に向けてどのような課題があるか、
それらの解決方策** について検討すること

内容を絞り込み検討していきます！

30

グループワーク1「追加の疑問点抽出」

○「ガイダンス・事前質問票への回答」時に
ふせんに書いた「追加の疑問点」を模造紙に
貼り出し

○必要に応じて整理

○早めに終え(10分以内) グループワーク2へ！

○出された疑問には次回お答えします！

31

グループワーク2 「アイデアと課題の抽出」

①まず、
黄色の付箋に...

取組の アイデア

...を書いて模造紙に
貼り出し、整理

その後、

↑

②青色の付箋に...

「アイデア」 の元になっ た課題認識

...を書いて模造紙に
貼り出し、整理
(アイデアの島の周囲に整理)

なぜ、そんな
アイデアを
出したの？

親和図法（KJ法）の進め方

①課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
○1枚の付箋には1つだけ！
○なるべく簡潔に！ 具体的に

○ 良い例

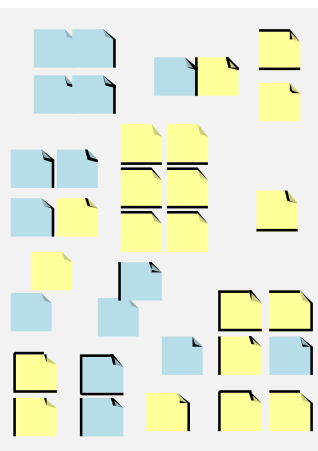
一人暮らしや
夫婦暮らしの
高齢者をリス
トアップする

× 悪い例

・同居老人の認知症が進ん
だり、人知れずお亡くなり
になるというような悲しい
報道をよく聞きますが、自
宅の近くでも発生しました
・そういつたことがないよう
に、同居と夫婦二人暮らし
の高齢者をまず調べ
ることが大切です。
・しかし、プライバシーの...


②模造紙（ワークシート）に付箋を貼り付け

○一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関
係のありそうなもの同士が近くになるよう貼付け！
○一見つまらなく思えるものも捨てずに貼り付ける！



③島づくりとタイトル付け

○整理しつつ、似たものを線で囲み「島」をつくる
○それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に！
○島にならないもの（離れザル）も捨てない！



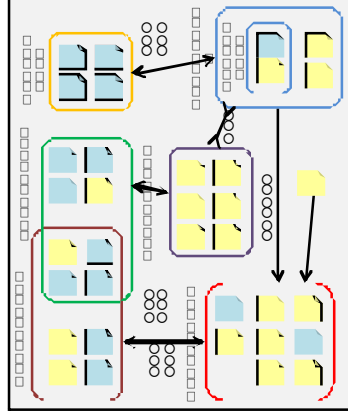
④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

関係線の種類

- 原因→結果
- 相互関係
- 対立関係

※必要に応じ、他の線を使っても可



36

グループワーク3

「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」

①アイデアの評価

- 個々人で、特に「取り組むべき！」と考える **アイデア**(島)にシールを貼付け(投票)
- シールは1人○票をお渡し(票数はテーブルファシリテーターにて判断)



37

グループワーク3

「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」(続き)

②検討を進める「取組」の決定

- 投票結果を参考にしながら、**話し合い**で検討を進める「取組」を決めてください
- わかりやすい(できればカッコいい)「取組」名になるように文章化してください(○○の取組、××を進める!、□□プロジェクト…)
- 「取組記入シート」(黄色の紙)に記入

38

4. 全体ワーク

39

グループ発表

- 作成した模造紙(ワークシート)に基づいて話し合いの内容を発表
 - 具体的には:
 - ・どのような「島」ができたのか
 - ・最終的に「取組記入シート」に書いた取組のタイトル
 - 1グループ〇分以内でお願いします！
-

40

**第2回ワークショップは
9月9日(土)
13:30~17:15です！**

41

平成29年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

第2回までの
宿題!

アイデア書き出しシート

私たち _____ 区チームが検討を進める「取組」は：

「取組」をより良いものにするための工夫・付加するアイデアを記入！：

ふせんに記入！ 足りなければ
この枠内や裏面に記入！

記入したふせん、このシート、サインペンは、次回忘れずに持参願います！

3. 第2回ワークショップ資料

(1) プログラム

平成29年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ ～第2回 アイデア実現に向けた方策の検討～

日時：平成29年9月9日（土）13:30～17:15

場所：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B

主催：札幌市 / 司会・運営：株式会社ノーザンクロス



市民参加ワークショップの目的

検討テーマ「地域で支える介護～私たちにできること～」を踏まえ、

- ・自分でできる日頃からの備え（自助の取組）
- ・となり近所の支え合い（互助の取組）

について、ご意見をいただくこと

第2回目目標

「自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合い」の取組実現に向けて
課題出しと、その**解決方策の検討**を行うこと

プログラム

1. 開会
2. ガイダンス、前回の振り返り
3. グループワーク
 - ・アイスブレイク
 - ・グループワーク1「取組アイデアのブラッシュアップ」
 - ・グループワーク2「アイデア実現に向けた課題抽出と解決策の検討」
 - ・グループワーク3「プロジェクト命名」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表、全体討議
5. 市民参加に関する情報提供
6. 主催者挨拶
7. 閉会

ワークショップについて

1. ワークショップ（グループワーク）とは：

いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見出す「体験型／参加型の会議・講座」です。

(意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません)

2. ワークショップの掟：

其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちょっと違うかも」と思っても、恥ずかしがらずに言うこと。

其の二 人の話は途中でさえぎらずよく聞くこと。

其の三 人の言ったことを批判したり茶化したりしないこと。

其の四 他の人が発言できるよう、発言は短めにする。

其の五 気軽に明るく楽しく取り組むこと。

memo

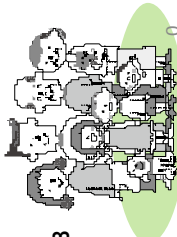
(2) ガイダンス説明資料

平成29年度 札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

**検討テーマ：地域で支える介護
～私たちができること～**

**第2回 アイデア実現に向けた
方策の検討**

日時：平成29年9月9日（土）13:30～17:15
場所：札幌市中央区民センター 2F つどいA・B
主催：札幌市
同会・運営：株式会社ノーザンクロス



1. 開会

1

2. ガイダンス、前回の振り返り

2

行政評価、
市民参加ワークショップの
役割・位置づけ等について
(再説明)

3

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ①

行政評価委員会について

市の施策・事業等を第三者の視点で評価する札幌市の外部機関で、市役所外部の専門家から構成されています。

札幌市が行う事業の必要性や効果、課題や改善策について、行政では気づかない点について審議・評価するのがその役割です。評価の結果は、事業の見直し・改善に活用されます。

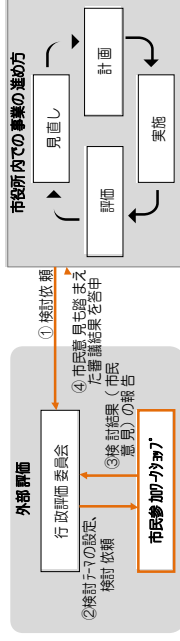
市民参加ワークショップについて

行政評価委員会で審議するテーマの中から、特に市民生活と関わりが深く、**市民目線・市民感覚で議論することが必要と考えられるテーマ**について、一般市民の方たちから**ご意見を伺う**するために実施するものです。

市民ワークショップで出された**意見は、行政評価委員会での審議に活用されます。**

4

行政評価委員会 市民参加ワークショップの役割・位置づけ②



5

市民参加ワークショップの目的

検討テーマ

「地域で支える介護～私たちにできること～」
を踏まえ、

- ・自分でできる日頃からの備え（自助の取組）
- ・となり近所の支え合い（互助の取組）

について、ご意見をいただくこと。

6

市民参加ワークショップの目標

自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合いとして、

第1回ワークショップ（8月26日）：

地域においてどのような取組が考えられるか
ご意見をいただき、整理すること（アイデアの抽出）

第2回ワークショップ（9月9日）：

アイデア実現に向けてどのような課題があるか、
それらの解決方策について検討すること

内容を絞り込み検討していきます！

7

本日のプログラム

1. 開会
2. ガイダンス、前回の振り返り
3. グループワーク
 - ・アイズブレイク
 - ・グループワーク1 「取組アイデアのブラッシュアップ」
 - ・グループワーク2 「アイデア実現に向けた課題抽出と解決策の検討」
 - ・グループワーク3 「プロジェクト命名」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表、全体討議
5. 市民参加に関する情報提供
6. 閉会・主催者挨拶

8

前回の振り返り

9

第1回目のプログラム

1. 開会・主催者挨拶
2. ガイダンス、事前質問票へのご回答
3. グループワーク
 - ・アイズブレイク
 - ・グループワーク1 「追加の疑問点抽出」
 - ・グループワーク2 「アイデアと課題の抽出」
 - ・グループワーク3 「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」
4. 全体ワーク
 - ・グループ発表
5. 閉会

10

グループワーク2 「アイデアと課題の抽出」

なぜ、そんな
アイデアを
出したの？

①まず、
黄色の付箋に...

取組の
アイデア

...を書いて模造紙に
貼り出し、整理

②青色の付箋に...

「アイデア」
の元になっ
た課題認識

...を書いて模造紙に
貼り出し、整理

(アイデアの島の周囲に整理)

11

グループワーク3

「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」

①アイデアの評価

- 個々人で、特に「取り組むべき！」と考える **アイディア** (島) にシールを貼付け (投票)
- シールは1人〇票をお渡し (票数はテーブルファシリテーターにて判断)



12

グループワーク3

「アイデアの評価、検討を進める『取組』の決定」(続き)



②検討を進める「取組」の決定

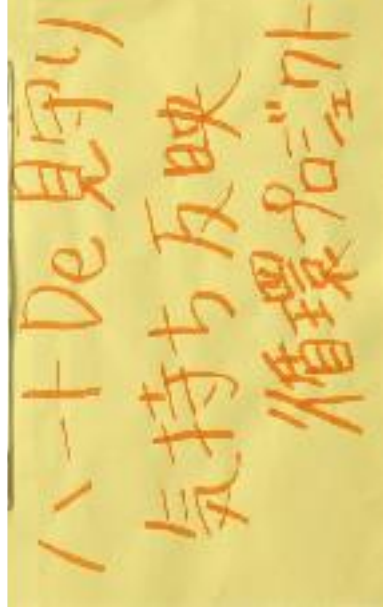
- 投票結果を参考にしながら、**話し合い**で検討を進める「取組」を決めてください
- わかりやすい(できればカッコイイ)「取組」名になるように文章化してください(〇〇の取組、入りを進める!、〇〇プロジェクト…)
- 「取組記入シート」(黄色の紙)に記入

13

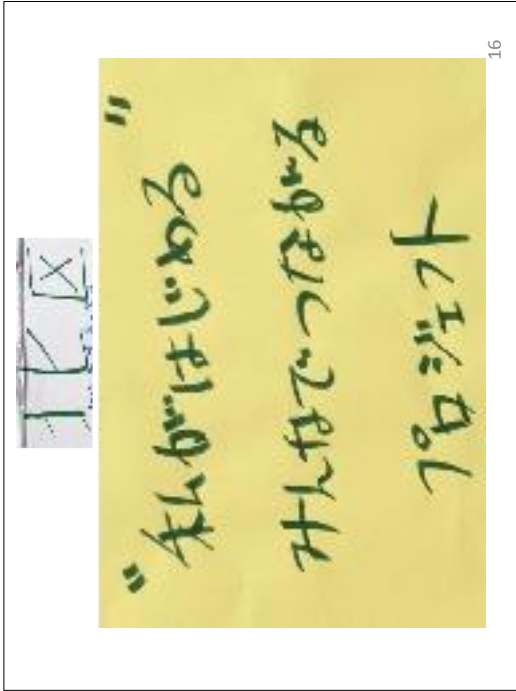
第2回で検討を進める取組 (仮称)



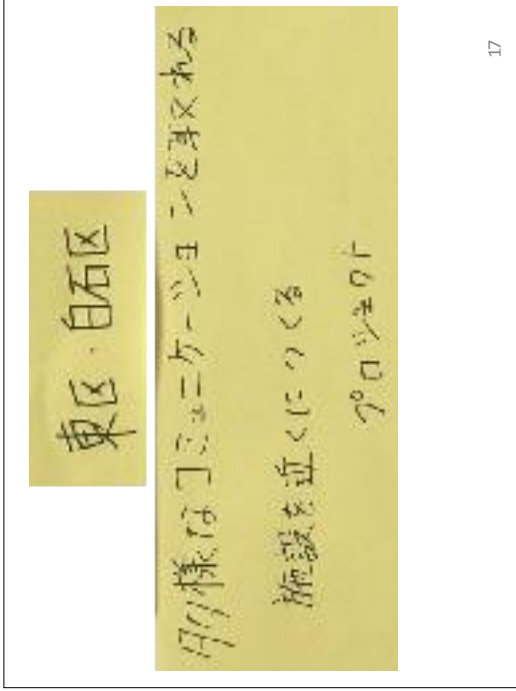
14



15



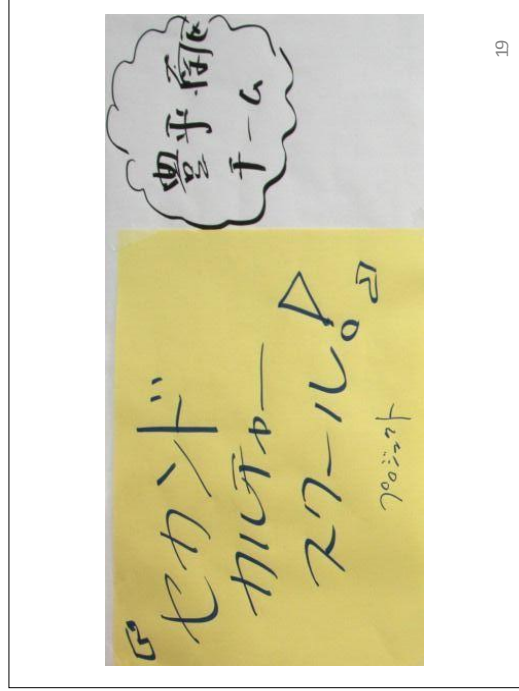
16



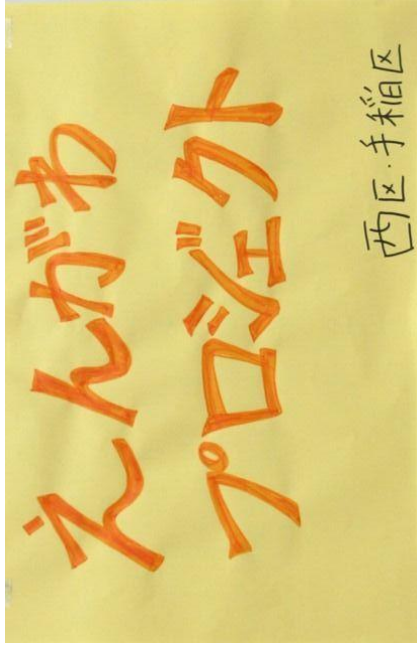
17



18



19



20

第1回目に出された
疑問点へのご回答

21

ワークショップの進め方について

22

ワークショップとは？

- いろいろな立場、考えの人が集まり、一緒に作業したり体を動かすことを通じて、お互いの意見を理解しあい、協力して新たな発見や共有の方向性を見い出す「体験型／参加型の会議・講座」
- 意見を戦わせる「議論」や、疑問・不明点を明らかにする「質疑応答」の場ではありません

23

親和図法（KJ法）について

- 文化人類学者・川喜多二郎氏(2009年没)が考案したデータ整理・問題解決手法。
- 「混沌として語らしめる」…混沌としたデータから何らかの形(秩序、法則、因果関係...)を見出す。
- 「専制的」ではなく、「民主的」手法…「アテハメ思考」からの脱却。独断的な分類のワク組みを適用しない。
- トップダウンではなく、ボトムアップの手法。

24

親和図法（KJ法）の進め方

- ①課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
○1枚の付箋には1つだけ！
○なるべく簡潔に！ 具体的に

○ 良い例

一人暮らしや
夫婦暮らしの
高齢者をリス
トアップする

× 悪い例

・独居老人の認知症が進んだり、人知れずお亡くなりになるというような悲しい報道をよく聞きますが、自宅の近くでも発生しました。・そういったことがないように、独居と夫婦二人暮らしの高齢者をまず調べるのが大切です。
・しかし、プライバシーの...

25

②模造紙（ワークシート）に付箋を貼り付け

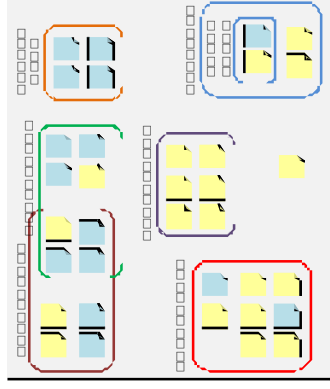
- 一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関係のありそうなもの同士が近くになるよう貼付け！
- 一見つまらなく思えるものも捨てずに貼り付ける！



26

③島づくりとタイトル付け

- 整理しつつ、似たものを線で囲み「島」をつくる
- それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に！
- 島にならないもの（離れザル）も捨てない！



27

④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

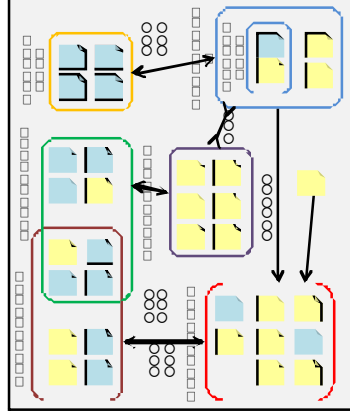
関係線の種類

○原因→結果

○相互関係

○対立関係

※必要に応じ、他の線を使っても可



28

とても大切！

ワークショップの掟

- 其の一 頭に浮かんだことは、些細なことでも、「ちよっと違うかも」と思っても、**恥ずかしがらずに言ってみる**こと
- 其の二 人の話は途中でさえぎらず**よく聞く**こと
- 其の三 人の言ったことを**批判したり茶化したりしない**こと
- 其の四 他の人が発言できるよう、**発言は短めに**すること
- 其の五 **気軽に明るく楽しく取り組む**こと。

29

3. グループワーク

30

アイスブレイク「つながる近況報告」

31

つながる近況報告

最初の人

1. お名前
2. 「介護」や「高齢者」について近況報告（何でも可！）

▶▶

2番め～最後の人

1. お名前
2. **前の人が言った近況報告にコメント**（感想、アドバイス、「そういえは私も…」など何でも可！）
3. 自分も「介護」や「高齢者」について近況報告

▶▶

最初の人

1. 最後の人と言った近況報告に何かコメント

32

市民参加ワークショップの目的

検討テーマ

「地域で支える介護～私たちにできること～」
を踏まえ、

- ・自分でできる日頃からの備え（自助の取組）
- ・となり近所の支え合い（互助の取組）

について、ご意見をいただくこと。

33

市民参加ワークショップの目標

自分でできる日頃からの備え、となり近所の支え合いとして、

第1回ワークショップ（8月26日）：
地域においてどのような取組が考えられるか
ご意見をいただき、整理すること（アイデアの抽出）

第2回ワークショップ（9月9日）：
アイデア実現に向けてどのような課題があるか、それらの解決方策について検討すること

内容を絞り込み検討していきます！

34

「取組アイデアのブラッシュアップ」

「取組」をより良いものにするための工夫・付加するアイデア

...模造紙に貼り出し、整理

・「宿題」で考えてきた
・今日、思いついた

・なるべく具体的に
・5W1H
・我が区/地域では

35

グループワーク2 「アイデア実現に向けた課題抽出と 解決策の検討」

① 青色の付箋に...
「取組」実現に向けて
**解決すべき
課題**

...を横造紙に貼り出し、
整理

↑
その後、

② ピンクの付箋に...
**課題の
解決方策**
(課題解決のアイデア)

...を横造紙に貼り出し、
整理

36

親和図法 (KJ法) の進め方

① 課題やアイデアを「ふせん」に書き出し
○ 1枚の付箋には1つだけ！
○ なるべく簡潔に！ 具体的に

○ **良い例**

一人暮らしや
夫婦暮らしの
高齢者をリス
トアップする

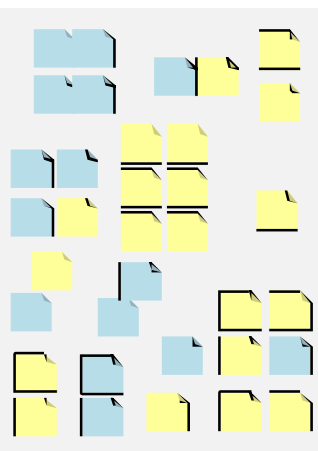
× **悪い例**

・ 同居老人の認知症が進んだり、人知れずお亡くなりになるというような悲しい報道をよく聞きますが、自宅の近くでも発生しました。
・ そういったことがないようし、同居と夫婦二人暮らしの高齢者をまず調べる
ことが大切です。
・ しかし、プライバシーの...

37

② 横造紙 (ワークシート) に付箋を貼り付け


○ 一人ずつ付箋の内容を発表しながら、似たもの・関係のありそうなもの同士が近くになるよう貼付け！
○ 一見つまらなく思えるものも捨てずに貼り付ける！



38

③ 島づくりとタイトル付け

○ 整理しつつ、似たものを線で囲み「島」をつくる
○ それぞれの島にタイトルをつける。簡潔に！
○ 島にならないもの (離れザル) も捨てない！



39

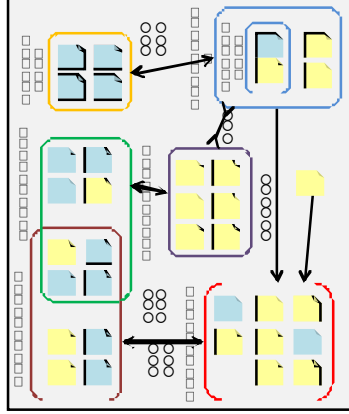
④関係線で結ぶ

- 関連がある島を線で結ぶ
- それぞれの島がどういう関係か、コメントする

関係線の種類

- 原因→結果
- 相互関係
- 対立関係

※必要に応じ、他の線を使っても可



40

グループワーク3 「プロジェクト命名」

- わかりやすく(できればかっこ良く)命名(改名)
- 第1回で考えた名称から変えなくても可だが…(内容は変わっていませんか? 名称を変えた方がさらにわかりやすくないですか?)
- 「プロジェクト名記入シート」(青色の紙)に記入

41

グループ発表

- 作成した模造紙(ワークシート)に基づいて話し合いの内容を発表
- 具体的には:
 - ・どのようなアイデアが出されたのか
 - ・ " 課題 "
 - ・ " 課題解決方策 "
 - ・最終的な「プロジェクト名」
- 1グループ○分以内でお願いします!

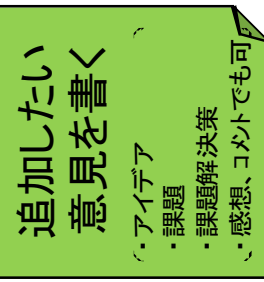
43

4. 全体ワーク

42

全体討議

それぞれのワークシート(模造紙)を見て...



...を書いて、そのワークシートに貼りつけ

44

5. 市民参加に関する情報提供

45

6. 主催者挨拶

46

(3) 参加者アンケート調査票

平成 29 年度札幌市行政評価 市民参加ワークショップ

参加者アンケート

今後の取組の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力をお願いします。

(1) 今回、市民参加ワークショップに参加することを決めた理由は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① テーマに興味があったから
- ② 自分の意見を述べたり、他人の意見を聞くことに興味があったから
- ③ 札幌市の政策や事業に活かされることを期待するから
- ④ 行政評価という取組に興味があったから
- ⑤ 参加謝礼品が提供されるから
- ⑥ その他 ()

(2) 今回の市民参加ワークショップの設定について、どのように感じられましたか？
5段階のうちあてはまるもの一つに○をつけてください。

・回数について（2回実施）

- ①1回が良い ②2回が良い ③3回が良い ④4回以上が良い
- | | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
|--|--|--|--|

・議論の時間について

- ①長い ②やや長い ③ちょうどよい ④やや短い ⑤短い
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

(3) 今回の市民参加ワークショップに参加した満足度について、あてはまるものひとつに○をつけてください。

- ①満足 ②やや満足 ③普通 ④やや不満 ⑤不満
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

裏面に続きます。

(3)で「満足」または「やや満足」と答えた方にお尋ねします)

どのような点に満足されましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 札幌市の取組について理解を深めることができた
- ② 札幌市の取組について他の市民参加者と意見交換することができた
- ③ テーマに関する疑問を札幌市の担当者に聞くことができた
- ④ 札幌市の行政評価を行う過程に参加することができた
- ⑤ その他 ()

(3)で「やや不満」または「不満」と答えた方にお尋ねします)

どのような点に不満を感じましたか？あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 札幌市の取組が十分に理解できなかった
- ② 札幌市の取組について十分に意見交換ができなかった
- ③ テーマに関する疑問が解消されなかった
- ④ 札幌市の行政評価の取組として行っている意義が十分に理解できなかった
- ⑤ その他 ()

(4) 今回のワークショップは土曜日に開催しました。今後、このような取組にあなたが参加される場合、何曜日の開催が望ましいでしょうか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- ① 平日が良い ② 土曜日が良い ③ 日曜日が良い ④ 何曜日でも構わない

(5) ワークショップの取組全体を通して、より多くの方にご参加いただけるワークショップにしていくための工夫・アイデアなど、ご意見、ご感想がございましたらお書きください。

最後に、あなた自身について、あてはまるものに○をつけてください。

- (1) 性別 ① 男性 ② 女性
- (2) 年代 ① 10歳代 ② 20歳代 ③ 30歳代
- ④ 40歳代 ⑤ 50歳代 ⑥ 60歳代 ⑦ 70歳代以上

ご協力ありがとうございました。

SAPPORO

平成 29 年度 札幌市行政評価 外部評価報告書

発行 札幌市 総務局 改革推進室
〒060 - 8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
電話 011 - 211 - 2061
URL <http://www.city.sapporo.jp/somu/hyoka/>



さっぽろ市
01-A02-17-2244
29-1-168